

# 遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備(建築主体)工事 (北—中型サル舎)

## 設計図

山梨建築設計監理事業協同組合

【図面リスト】

[illegible]

特 記 事 項	 山梨建築設計監理事業協同組合	承認	設計	担当	縮 尺	工事名称 遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備(建築主体)工事 (北—中型サル舎) 図面名称 図面リスト	北中 A-01 No.
					設計年月日		

遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備(建築主体)工事  
(北—中型サル舎) 設計図

令和 年 月 (全 枚)

仕 様 書

I 工事概要

1. 工事場所

山梨県甲府市太田町10番1号

2. 敷地面積

3. 工事種目

壁式鉄筋コンクリート造、鉄骨造 平屋建

4. 工事内容

外装改修工事

内装改修工事

塗装改修工事

屋外放銅場改修工事

環境配慮改修工事

5. 工事範囲

※「3. 工事種目」すべてを工事範囲とする。

・「3. 工事種目」のうち各工事項目における工事範囲は下記表のとおりとする。ただし、その他の工事種目はすべて今回工事範囲とする。

工事種目

工事項目

仮設工事

3 防水改修工事

外壁改修工事  
コンクリート打直し仕上げ外壁

外壁改修工事  
モルタル塗り仕上げ外壁

外壁改修工事  
タイル張り仕上げ外壁

外壁改修工事  
塗り仕上げ外壁

5 建具改修工事

内装改修工事

塗装改修工事

8 耐震改修範囲以外の躯体改修工事

耐震改修工事

環境配慮改修工事

Ⅱ 建築改修工事仕様

1. 共通仕様

図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)(令和4年版)」(以下「改修様式」という。)により、また、改修様式に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)(令和4年版)」(以下「様式」という。)による。

2. 特記仕様

(1) 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。

(2) 特記事項は、○印の付いたものを適用する。  
○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。  
○印と○印の付いた場合は、ともに適用する。

(3) 特記事項に記載の「」内表示番号は、改修様式の当該項目、当該図又は当該表を示す。

(4) 特記事項に記載の「」内表示番号は、様仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。

(5) 特記事項に記載の「別2-」は、様仕の「別図2 ポルト間隔等及び溶接継手の開先形状」の該当項目を示す。

(6) □印は「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律(グリーン購入法)」の特定調達品目を示す。

章

一般共通事項

1 適用基準等

・建築工事標準詳細図(国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修 最新版)  
・工事写真の撮り方(最新版) 建築編(建設大臣官房官庁営繕部監修)  
・建築物解体工事共通仕様書(国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 最新版)  
・

2 工事実績情報の登録

※適用する

3 施工計画書

○工事の着手に先立ち、工事の総合的な計画をまとめた総合施工計画書を作成し、監督職員に提出する  
○品質計画、一工程の施工の確認及び施工の具体的な計画を定めた工種別の施工計画書を、当該工事の施工に先立ち作成し、監督職員に提出する。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合は、この限りではない。  
○施工計画書の内容を変更する必要がある場合は、監督職員に報告するとともに、施工等に支障がないよう適切な措置を講じる。

4 電気保安技術者

工事現場における電気保安技術者は、電気事業法に基づく電気主任技術者の職務を補佐し、電気工作物の保安の業務を行うものとする。  
・要  
・不要

5 施工条件

共A-05参考工程表を参照

6 発生材の処理等

・発注者に引渡しを要するもの(・・・)  
○特別管理産業廃棄物(・廃石綿・・・)  
・現場において再利用を図るもの(・・・)  
・再資源化を図るもの(・・・)  
・POB含有シーリング材の処理  
・第一次判定：現場にてサンプルを採取し、シーリング材種及び分析の要否を判定する。  
採取箇所数 計( )箇所  
採取箇所 ※図示  
・第二次判定：専門分析機関にてPOB含有量の分析を行う。  
分析個数 計( )箇所  
・除去処理工事  
除去範囲 ※図示

7 環境への配慮

化学物質を放散させる建築材料等  
本工事の建物内部に使用する材料等は、設計図書に定める所要の品質及び性能を有するものとし、次の(1)から(5)を満たすものとする。  
(1) 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板複層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、仕上塗材及び壁紙は、ホルムアルデヒドを放散させないが、放散が極めて少ないものとする。  
(2) 保温材、緩衝材、断熱材はホルムアルデヒド及びスチレンを放散させないが、放散が極めて少ないものとする。  
(3) 接着剤はフタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシルを含有しない難揮発性の可塑剤を使用し、ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンを放散させないが、放散が極めて少ないものとする。  
(4) 塗料はホルムアルデヒド、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンを放散させないが、放散が極めて少ないものとする。  
(5) (1)、(3)及び(4)の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器等は、ホルムアルデヒドを放散させないが、放散が極めて少ないものとする。  
また、設計図書に定める「ホルムアルデヒド放散量」は、次のとおりとする。  
ホルムアルデヒド放散量 該当する材料  
規制対象外  
① JIS及びJASのF☆☆☆☆規格品  
② 建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品  
③ 下記表示のあるJAS規格品  
a. 接着剤等不使用  
b. 非ホルムアルデヒド系接着剤使用  
c. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用  
d. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用  
e. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用  
f. ホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用  
第三種  
① JIS及びJASのF☆☆☆☆規格品  
② 建築基準法施行令第20条の7第3項による国土交通大臣認定品  
本工事に使用する材料は、設計図書に定める所要の品質及び性能を有するものとし、JIS又はJASのマーク表示のない材料及びその製造者等は、次の(1)～(6)の事項を満たすものとする。  
(1) 品質及び性能に関する試験データが整備されていること  
(2) 生産施設及び品質の管理が適切に行われていること  
(3) 安定的な供給が可能であること  
(4) 法令等で定める許可、認可、認定、免許等を取得していること  
(5) 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること  
(6) 販売、保守等の営業体制が整えられていること  
なお、これらの材料を使用する場合は、設計図書に定める品質及び性能を有することの証明となる資料又は外部機関(「社」公共建築協会等)が発行する「建築材料・設備機材等品質性能評価事業」の評価書等の写しを、監督職員に提出して承諾を受けるものとする。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合は、この限りでない。  
また、備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は、監督職員の承諾を受ける。

8 材料の品質等

改修様式及び様仕に記載されていない特別な材料の工法について、材料製造所の指定する工法とする。

9 施工数量調査

調査範囲及び調査方法 ※図示  
既存部分の破壊を行った場合の補修方法 ※図示

1 技能士

適用工事種別

技能検定作業

防水改修工事

・アスファルト防水工事作業  
・ウレタンゴム系塗膜防水工事作業  
・アクリルゴム系塗膜防水工事作業  
・合成ゴム系シート防水工事作業  
・塩化ビニル系シート防水工事作業  
・セメント系防水工事作業  
○シーリング防水工事作業  
・改質アスファルトシートトーチ工法防水工事作業  
・FRP防水工事作業  
・左官作業  
・内外装板金作業

外壁改修工事

○左官作業  
・タイル張り作業  
○建築塗装作業

建具改修工事

・ビル用サッシ工事作業  
・ガラス工事作業  
・自動ドア工事作業

内装改修工事

・プラスチック系床仕上げ工事作業  
・カーペット系床仕上げ作業  
○ボード仕上げ工事作業  
・壁張作業  
・大工工事作業  
・鋼製下地工事作業  
・左官作業  
・タイル張り作業

塗装改修工事

○建築塗装作業

耐震改修工事

・鉄筋組立作業  
・型枠工事作業  
・コンクリート圧送工事作業  
・構造物鉄工作業  
・とび作業

コンクリートブロック

・コンクリートブロック工事作業

石工事

・石張り作業

積載工事

・造園工事作業

化学物質の濃度測定

施工完了時に室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレンの濃度を測定し、報告する。  
測定はバッシン型採取機器により行う。  
着工前の測定 行う  
測定対象室 ・・・キーパー通路  
測定箇所数 ・・・1箇所  
報告の様式等については、現場説明書による。

完成時の提出図書

・完成図  
・既存図面修正  
※作成する  
提出部数 ※各2部  
部 (A3版第二原図及び電子媒体(CD-R))  
種類 ※改修様仕表1.8.1による。ただし、種類は当該工事で該当する図面、表及び計画書とする。  
※施工計画書 提出部数 ※1部  
部  
※施工図 提出部数 ※1部  
部  
・保全に関する資料 提出部数 ※2部  
部

14 設備工事との取合い

設備機器の位置、取合い等が検討できる施工図を提出して、監督職員の承諾を受ける。

設計GL

※設計GL=±0=261.19

2 仮設工事

1 足場その他

内部足場 種別 ※きやつた、足場板等

外部足場 種別 ※A種・B種・C種・D種・E種

防護シート ※設置する  
・設置しない  
材料、撤去材等の選搬方法 ・・・A種  
※B種・C種・D種・E種

2 既存部分の養生

既存部分の養生 ※ビニルシート等  
既存家具等の養生 ※ビニルシート等  
固定家具等の移動 ※行わない  
・・・行う(図示)

3 仮設間仕切り

仮設間仕切り等の種別  
種別 下地 仕上材(厚さ mm) 充填材 塗装  
・A種 ※軽量鉄骨 ・・・合板(※9.0 ・・・) 厚さ mm ※なし  
・B種 ・・・木下地 ※せつこうボード(※9.5 ・・・) ・・・片面  
※C種 ・・・単管下地 防炎シート  
仮設扉 ※木製扉 ※合板張り程度 ※なし  
・・・鋼製扉 ※片面フラッシュ程度 ・・・あり

監督職員事務所

※設ける  
・構内に新設する(規模及び仕上げの程度は現場説明書による)  
・既存建物内の一部を使用する  
○設けない

工事用水

構内既存の施設 ※利用できない  
○利用できる(※有償・無償)

工事用電力

構内既存の施設 ※利用できない  
○利用できる(※有償・無償)

3 防水改修工事

1 既存防水層の撤去

既存保護層(平場)の撤去 ・・・行う(範囲・図示 ・・・)  
既存防水層(平場)の撤去 ・・・行う(範囲・図示 ・・・)  
立上り部の防水層撤去  
・・・行う(・POS(機械)・POS I(機械)・MAS・MAS I  
・S4S(機械)・S4S I(機械))  
露出防水層表面の仕上げ塗装除去  
・・・行う(・MAS・MAS I・MAC・M4D I・L4X)  
改修用ドレン  
・・・設ける(・POAS・POAS I・POD・POD I・POS・POS I・POX)

2 既存下地の処理

アスファルト補修の材料 ※JIS K 2207による3種  
既存下地の補修箇所、範囲、数量等 ※図示

3 アスファルト防水

防水改修工法の種類

新規防水層の種類

施工箇所

保護防水

・P1B工法  
・P1B I工法  
・P2A I工法  
・P2A工法  
・M4C工法  
・M3D工法  
・P0D I工法  
・M4D I工法  
・P1E工法  
・P2E工法

露出防水

・C-1  
・C-1  
・D-1  
・D-1-1  
・D-1-1

屋内防水

・E-1  
・E-2  
(保護層は図示による)

アスファルトの種類

※3種・4種

M3D、P0D、POD I、M3D I及びM4D I工法の脱気装置

※設ける  
・設けない

断熱工法の断熱材

※押出法ポリスチレンフォーム3種bスチン層付 4  
厚さ(mm) ※25  
厚さ(mm)

4 改質アスファルトシート防水

立上り部の保護材  
・乾式保護材  
・れんが  
・コンクリート  
※押出成形セメント板(厚さ15mm)  
※JIS R 1250によるもの  
・市販品のれんが又は市販品のれんが形コンクリートブロック(見え隠れ部分)

5 合成高分子系ルーフィングシート防水

防水改修工法の種類

新規防水層の種類

厚さ(mm)

施工箇所

使用分類

・POS工法  
・S4S工法  
・POS I工法  
・S4S I工法  
・S3S工法  
・S3S I工法  
・MAS工法  
・MAS I工法  
・S-I-F1  
・S-M1  
・S-F2  
・S-M2  
・S-I-F1  
・S-I-F2  
・S-I-M1  
・S-I-M2  
・S-I-M3

・シルバー  
・カラー  
※非歩行

6 塗膜防水

防水改修工法の種類

新規防水層の種類

施工箇所

仕上塗料塗り

・POX工法  
・L4X工法  
※X-1  
※X-2  
・X-1  
※X-2  
・シルバー  
・カラー

7 脱気装置

脱気装置 ・・・設ける  
・設けない  
目地処理 PCコンクリートの場合( )

8 シーリング

シーリング改修工法の種類  
・シーリング充填工法  
・抵幅シーリング再充填工法  
・ブリッジ工法  
シーリング材の種類 ※下表以外は、改修様仕表3.7.1による  
施工箇所  
シーリング材の種類(記号)

9 とい

ブリッジ工法 ボンドブレイカー張り  
エッジング材張り  
接着性試験 ※簡易接着性試験  
引張接着性試験(部位： )

10 アルミニウム製窓

といの材質  
・配管用鋼管  
・硬質塩化ビニル管(・VP・RF-VF 6)  
鋼管製といの防露巻き  
※行う(施工箇所 ※改修様仕表3.8.5による  
・  
防露材のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外  
・第三種  
といの掃除口 ※あり(図示)  
・なし  
たてどい受金物の取付け  
※図示  
・様仕13.5.3(d)(2)による

11 折板葺

ルーフトレン  
種別  
・ろく屋根用(・たて形・機形)  
・バルコニー中継用  
・バルコニー用

特記事項

承認

設計

担当

縮尺

工事名称

遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備(建築主体)工事(北—中型サル舎)

図面名称

特記仕様書 1

設計年月日

北中 A-02 No.

①施工数量調査

②修修材料

外壁改修工事

共通事項

調査範囲 ※外壁改修範囲 ・図示の範囲

調査内容

調査報告書の部数 ※2部

既製コンクリート

バテタエポキシ樹脂

可とう性エポキシ樹脂

タイル部分張替え工法用接着剤

エポキシ樹脂モルタル

ポリマーセメントモルタル

吸水調整材

①ひび割れ部改修工法

②欠損部改修工法

外壁改修工事

コンクリート打放し仕上げ外壁

外壁改修工事

モルタル塗り仕上げ外壁

①既存タイル張りの撤去

②ひび割れ部改修工法

③欠損部改修工法

④目地改修工法

外壁改修工事

タイル張り仕上げ外壁

①既存タイル張りの撤去

②ひび割れ部改修工法

③欠損部改修工法

④目地改修工法

①既存塗膜等の除去及び下地処理

②下地調整

③仕上塗材仕上げ

既存塗膜劣化部の除去、下地処理の工法

仕上塗材の種類、仕上げの形状等

防火材料の指定

特記事項

承認

設計

担当

縮尺

工事名称

図面名称

設計年月日

北中 A-03 No.

5

建具改修工事

1改修工法

5.1.3

建具の種類

かぶせ工法

撤去工法

適用箇所

・アルミニウム製建具

-

-

※建具表による

・図示

・鋼製建具

・外部

※建具表による

・図示

・内部

-

-

※建具表による

・図示

・鋼製軽量建具

-

-

※建具表による

・図示

・ステンレス製建具

-

-

※建具表による

・図示

・樹脂製建具

-

-

※建具表による

・図示

2防火戸

5.1.4

(a)防火戸の指定は、特記による。

(c)防火戸の自動閉鎖機構及び防火戸をヒューズ装置、熱感知器又は煙感知器と連動させる場合は、特記による。  
なお、防煙シャッターの場合は、煙感知器と連動するものとする。

3見本の製作等

5.1.5

特殊な建具の仮組

仮組の実施は、特記による。

4その他

5.1.7

(a)開閉操作が複雑な建具については、操作方法を表示する。

(b)開口部の侵入防止対策上有効な措置が講じられた「防犯建物部品」の適用は、特記による。

5アルミニウム製建具

5.2.2

[表5.2.1]

性能及び構造

表5.2.1 外部に面するアルミニウム製建具の性能等級等

種 別	耐風圧性	気密性	水密性	特見込み (mm)	施工箇所
・A種	S-4	※A-3	※W-4	※70	※図示
・B種	S-5	-	-	-	-
・C種	S-6	A-4	W-5	特記による。	-

防音ドアセット、防音サッシ

・適用する

遮音性の等級 ( )

断熱ドアセット、断熱サッシ

・適用する

断熱性の等級 ( )

耐震ドアセット

・適用する

面内変形追随性の等級 ( )

形状及び仕上げ

(1) 特見込み70mmの建具に用いる引違い及び片引きの障子は、ガラスのはめ込みにグレイジングチャンネルが使用できる構造とする。

(2) 外部に面する引違い窓及び片引き窓は、容易に網戸が取り付けられる構造とする。

・結露水の処理方法は、特記による。

表5.2.2 表面処理の種別

JIS				
種 別	表面処理	規格番号	規 格 名 称	皮膜又は複合皮膜の種類
・AB-1種	無着色陽極酸化皮膜			AA15
・AB-2種	着色陽極酸化皮膜			
・AC-1種	無着色陽極酸化皮膜	JIS H 8601	アルミニウム及びアルミニウム合金の陽極酸化皮膜	
・AC-2種	着色陽極酸化皮膜			AA6
・BA-1種	無着色陽極酸化塗装複合被膜			
・BA-2種	着色陽極酸化塗装複合被膜	JIS H 8602	アルミニウム及びアルミニウム合金の陽極酸化塗装複合皮膜	A2 (過酷な環境の屋外)
・C種	化成皮膜の塗上塗装	JIS H 4001	アルミニウム及びアルミニウム合金の焼付け塗装板及び条	—

(注) 常温乾燥形の塗装の場合は、特記による。

網戸

防虫網の材質

※合成樹脂製

・ガラス繊維入り合成樹脂製

・ステンレス製 (SUS316)

形式

※外部可動式

・固定式

6樹脂製建具

5.3.2

[表5.3.1]

性能及び構造

・建具の性能及び構造は、ドアセットにあってはJIS A 4702 (ドアセット)、サッシにあってはJIS A 4706 (サッシ) による。

・樹脂製建具の性能値等

(1) 耐風圧性、気密性及び水密性の等級は、特記による。特記がなければ、外部に面する建具の場合は表5.3.1により、種別は特記による。

表5.3.1 外部に面する樹脂製建具の性能等級等

性能項目	耐風圧性	気密性	水密性	特の見込み寸法 (mm)
・A種	S-4		W-4	
・B種	S-5	A-4	W-5	
・C種	S-6			特記による

7鋼製建具

5.4.2

[表5.4.1]

防音ドア、防音サッシとする場合の遮音性の等級は、特記による。

性能及び構造

・簡易気密型ドアセットの気密性、水密性の等級は表5.4.1により、適用は特記による。

・外部に面する鋼製建具の耐風圧性は表5.2.1により、適用は特記による。

表5.4.1 鋼製建具の性能等級

性能項目	耐風圧性	気密性	水密性
・簡易気密型ドアセット		A-3	W-1

8鋼製軽量建具

5.5.2

[表5.5.1]

・簡易気密型ドアセットの気密性の等級はA-3とし、適用は特記による。

・鋼板の厚さは特記による。

表5.5.1 鋼製軽量建具に使用する鋼板類の厚さ (単位: mm)

区分	使用箇所	厚さ
・種類	一般部分	1.6
	くつすり	1.5 (注)
	表面板	0.6以上
	力骨、中骨	1.6
	召合せ	0.6以上
・戸	縦小口包み板	0.6以上
	押縁	—
	その他	1.6
・補強板の種類		2.3以上

(注) くつすりの材料は、5.5.3(3)による。

9ステンレス製建具

5.6.2

[表5.6.3]

簡易気密型ドアセットの適用は建具表による

外部に面する建具の耐風圧性の適用は建具表による

表面仕上げ

※HL

・鏡面

曲げ加工

※普通曲げ

・角出し曲げ (補強あり)

表5.6.1 ステンレス製建具に使用する鋼板類の厚さ (単位: mm)

使用箇所	厚さ
一般部分	1.5 (a)
くつすり	1.5
裏板	1.6以上
補強板の種類	2.3以上

(注) 特定防火設備で片面フラッシュ戸の場合は、実厚で1.5mm以上とする。

10木製建具

(建築工事標準仕様書)

5.7.2

(表16.7.3)

かまち戸の樹種

かまち ( )

鏡板 ( )

(16.7.2)

ふすまの上張り

(表16.7.3)

※新島の子又はビニル紙程度 (押入等の裏面は除く)

・鳥の子

建物内部の木製建具に使用する表面材 (合板) 及び接着剤のホルムアルデヒド放数量

(16.7.2)

※規制対象外

・第三種

1.1建具用金物

5.7.4

鏡

マスターキー

※製作する

・製作しない

5.7.4

鍵箱

市販品

形式

・30組用

・60組用

・120組用

1.2自動ドア開閉装置

5.9.2

ドアの種類

センサーの種類

※スライディングドア

・マットスイッチ

※光線 (反射) スイッチ

種類

・SSLD-1

・SSLD-2

・熱線スイッチ

・音波スイッチ

・DSL-D-1

・DSL-D-2

・光電スイッチ

・電波スイッチ

・スイングドア

・タッチスイッチ

・押しボタンスイッチ

種類

・SWD-1

・SWD-2

・ペダルスイッチ

・多機能使用スイッチ

・凍結防止措置 (適用箇所は建具表による)

1.3自閉式上吊り引戸装置

5.10.2

材料

※SUS304、アルミニウム製等防錆性能を有するもの

・製造所標準仕様による

性能

※改修仕様5.8.3による

・製造所標準仕様による

1.4重量シャッター

5.11.2

シャッターの種類

性 能

・一般重量シャッター

耐風圧性能 ( ) N/m<sup>2</sup>

・外壁用防火シャッター

耐風圧性能 ( ) N/m<sup>2</sup>

・屋内用防火シャッター

・屋内用防煙シャッター

開閉機能

※上部電動式 (手動併用)

・上部手動式

[5.11.2]

[表5.11.2]

危害防止機構

※障害物感知装置 (自動閉鎖型)

[5.11.2]

一般重量シャッターのシャッターケース

※設ける

・設けない

[5.11.3]

1.5軽量シャッター

5.12.2

[表5.12.2]

開閉形式

※手動式

・上部電動式 (手動併用)

[5.12.2]

[表5.12.2]

スラット

材質

※JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯)

[5.12.4]

又はJIS G 3322 (塗装溶融亜鉛-55%アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯)

・鋼板

形状

※インターロックング形

・オーバerrapping形

[5.12.4]

ガイドレール等

※鋼板製

・ステンレス製SUS304 (厚さ1.0mm)

[表5.12.2]

耐風圧性能 ( ) N/m<sup>2</sup>

[5.13.2]

[5.13.3]

1.6オーバーヘッドドア

5.13.2

[5.13.3]

セクション材料

開閉方式

収納形式

ガイドレールの材質

※スチールタイプ

※バランス式

・スタンダード形

※溶融亜鉛めっき鋼板

・アルミニウムタイプ

・チェーン式

・ローヘッド形

・ファイバークラスタイプ

・電動式

・ハイルフト形

・ステンレス鋼板 (SUS304)

・バーチカル形

1.7ガラス

5.14.2

[5.14.5]

耐風圧性能 ( ) N/m<sup>2</sup>

板ガラスの種類、厚さ等は建具表による

・ガラスブロック

表面形状

呼び寸法 (mm)

厚さ (mm)

色 調

防火認定

・正方形

・

・

※クリア

・熱線反射

※なし

・長方形

・乳白色

・カラー ( )

・あり

ガラス留め材

5.14.3

[5.14.5]

建具の種類

材 種

アルミニウム、樹脂製

※シーリング材

・ガスケット (FIX部はシーリング材)

鋼製及び鋼製軽量

※シーリング材

ステンレス製

※シーリング材

防火戸のガラス留め材は、防火戸が建築基準法に基づき定められ又は認定を受けた条件による。

板ガラスをはめ込む溝の大きさ

5.14.3

改修仕様5.12.3 以外のアルミニウム製建具及び板ガラスの場合は (社) 日本建築学会 JASS17 ガラス工事「納まり寸法標準」によるほか、性能値が確認できる資料を監督職員に提出する。

ガラス用フィルム

5.14.3

名 称

種 類

張り面

性能値

※ガラス飛散防止フィルム

第2種

※内張り

・外張り

飛散防止率 D1

・

品質JIS A 5759による

⑥内装改修工事

1改修範囲

6.1.3

既存開口切縁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井、壁、床の改修範囲

[6.1.3]

※壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う

・図示の範囲

6.1.3

天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井の改修範囲

※壁面より両側600mm程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う

・図示の範囲

6.1.3

天井の撤去に伴う取合い部の壁面の改修

※既存のまま

・図示の範囲

6.2.2

ビニル床シート等の除去

※仕上材の目 (接着剤共)

・下地モルタル共 (※図示の範囲

・除去範囲すべて)

6.2.2

合成樹脂塗床材の除去工法

※機械的除去工法

・目貫し工法

6.2.2

改修後の床の清掃範囲

※改修箇所の室内

6.3.2

[4.4.9]

開口切壁撤去に伴う他の構造体の補修

※モルタル塗り (塗厚25mmを超える場合の補強

※行う

・行わない)

・図示

6.5.1

[表6.5.1]

表面仕上げの程度

・A種

※B種

・C種

6.5.2

[表6.5.3]

現場搬入の木材の含水率

※A種

・B種

6.5.2

保存処理木材

・使用する (使用箇所: )

6.5.2

構造材及び下地材の品質の基準

※改修仕様6.5.2(a) (2) (iv) による

6.5.2

[表6.5.4]

造作材の材面の品質の基準

※A種

・B種

6.5.2

[表6.5.4]

代用樹脂を使用しない箇所

( )

6.5.2

集材材及び基板積層材のホルムアルデヒド放数量

※規制対象外

・第三種

6.5.2

構造用集材材

6.5.2

施工箇所

品 名

強度等級

材面の品質

接着性能

樹種名

寸法 (mm)

6.5.2

構造用単板積層材

6.5.2

施工箇所

接着性能

曲げ性能

樹種名

寸法 (mm)

6.5.2

造作用集材材

6.5.2

施工箇所

樹種名

見付け材面の品質

寸法 (mm)

6.5.2

化粧ざり造作用集材材

6.5.2

施工箇所

心材の樹種名

樹種名

厚さ (mm)

見付け材面の品質

寸法 (mm)

6.5.2

単板積層材

6.5.2

施工箇所

表面の品質

防虫処理

寸法 (mm)

6.5.2

合板のホルムアルデヒド放数量

※規制対象外

・第三種

6.5.2

[6.13.2]

普通合板

6.5.2

[6.13.2]

施工箇所

厚さ (mm)

表板の樹種名

接着の程度

板面の品質

防虫処理

その他の処理

6.5.2

構造用合板

6.5.2

施工箇所

厚さ (mm)

表板の樹種名

接着の程度

等級

板面の品質

防虫処理

6.13.2

天然木化粧合板

6.13.2

施工箇所

厚さ (mm)

化粧板の樹種名

接着の程度

防虫処理

その他の処理

6.13.2

特殊加工化粧合板

6.13.2

施工箇所

厚さ (mm)

化粧加工の方法

表面性能

加工面

接着の程度

防虫処理

その他の処理

6.5.5

防腐処理

※行う (※改修仕様6.5.2(h) (3) による

・図示

( )

6.5.5

防蟻防虫処理

・行う (※図示

( )

6.5.5

防腐、防蟻防虫処理剤の種類及び品質

表面処理用木材保存剤 (防腐・防蟻剤) は監督職員の承認するものとする。

8接着剤

(内装改修工事全般)

6.5.2

[6.5.4]

[6.8.2]

[6.9.3]

[6.11.5.6]

[6.13.12]

[6.14.2]

[6.16.3]

壁紙施工用でん粉系接着剤、ユリア樹脂、メラミン樹脂、フェノール樹脂、レゾルシノール樹脂 (以下「ユリア樹脂等」という) 又はホルムアルデヒド系防腐剤を用いた接着剤のホルムアルデヒド放数量

※規制対象外

・第三種

※接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。

9軽量鉄骨天井下地

6.6.2

[表6.6.1]

野縁等の種類

屋外 (・19形

※25形)

屋内 (※19形

・25形)

既存の埋込みインサート

・使用する

・使用しない

あと施工アンカーの引抜き試験

・行う

・行わない

屋外の軒天井、ピロティ天井等

野縁受、吊りボルト、インサートの間隔及び周辺部からの距離

※図示

野縁の間隔

※図示

耐風圧性を考慮した補強

※図示

天井下地材における耐震性を考慮した補強

・行う (補強箇所

※図示

補強方法

※図示)

10軽量鉄骨壁下地

6.7.3

[表6.7.1]

スタッド、ランナーの種類

※改修仕様表6.7.1による

・図示

スタッドの高さが5mを超える場合

※図示

1.1ビニル床シート、ビニル床タイル及びゴム床タイル張り

6.8.2

ビニル床シート及びビニル床タイルの特長機能

帯電防止

・帯電防止性能評価値 (JIS A 1455) 1.2以上〜3.2未満

又は体積電気抵抗値 (JIS A 1454) 1×10<sup>10</sup>〜1×10<sup>12</sup>Ω程度

耐動荷重

JIS A 1454による、へこみ試験、残留へこみ試験、滑り性試験、摩耗性試験、層間はく離強度試験 (発泡層のあるビニル床シートのみ) 及びキャスト性試験等の試験後、異常がないこと

6.8.2

ビニル床シート

6.8.2

種 類

記号

施工箇所

色 柄

厚さ (mm)

特長機能

※発泡層のないもの

※NC

・

※無地

・マーブル柄

※2.5

・帯電防止

・耐動荷重

・発泡層のあるもの

・

※柄物

・

・帯電防止

・耐動荷重

・

・

・無地

・

・帯電防止

・耐動荷重

6.8.3

工法

※熱溶接工法

・突付け (施工箇所: )

6.8.2

ビニル床タイル

6.8.2

種 類

記号

施工箇所

色柄

寸法 (mm)

厚さ (mm)

特長機能

・コバジツコ

CT

※無地

・300×300

※2.0

・帯電防止

・耐動荷重

・コバジツコ (半硬質)

・柄物

・450×450

・

・帯電防止

・耐動荷重

・コバジツコ

CTS

※無地

・300×300

※2.0

・帯電防止

・耐動荷重

・ビニル床タイル (軟質)

・

・450×450

・

・帯電防止

・耐動荷重

・ビニル床タイル

HT

※無地

・300×300

※2.0

・帯電防止

・耐動荷重

・重敷きビニル床タイル

HTL

※無地

・500×500

・

・帯電防止

・耐動荷重

6.8.2

ビニル幅木

6.8.2

材質

※軟質

・硬質

高さ (mm)

※60

・75

・100

厚さ (mm)

※1.5

6.8.2

ゴム床タイル

6.8.2

色柄

( )

厚さ (mm)

・3.0

・4.5

・6.0

・9.0

寸法

( )

6.9.2

[表6.9.1]

織じゅうたん

6.9.2

[表6.9.1]

種 別

バイエル形状

織り方

色柄等

帯電性

備 考

・A種

・カバリエ

・カバリエ

※無地

※人体帯電圧

・B種

・ループバリエ

・ダブリエ

・柄物

3kV以下

・C種

・カバリエ併用

・カバリエ

(標準品)

・

6.9.3

[表6.9.2]

タフテッドカーペット

6.9.3

[表6.9.2]

バイエル形状

バイエル長さ (mm)

工 法

帯電性

備 考

・カットバイエル

※5〜7

※全面接着工法

※人体帯電圧

・ループバイエル

※4〜6

・グリッター工法

3kV以下

・レベリングバイエル

※4

・

・カット、ループ併用

・

・

6.9.3

下敷き材

※反毛フェルト (JIS L 3204) の第2種2号

呼び厚さ8mm

6.9.3

ニードルパンチカーペット

6.9.3

厚さ (mm)

帯電性

※人体帯電圧3kV以下

備考

6.9.3.4

タイルカーペット

6.9.3.4

バイエル形状

種 類

寸法 (mm)

総厚さ (mm)

帯電性

備 考

※ループバイエル

※第一種

※500×500

※6.5

※人体帯電圧3kV

・第二種

・

以下 (777×777mm敷設範囲)

・カットバイエル

・

・

・カット、ループ併用

・

・

6.9.3

タイルカーペットの敷き方

平場

※市松敷き

・横溝流し

階段部分

※横溝流し

・市松敷き

6.9.3

見切り、押え金物

・適用する (材質、形状等

※図示

・

( )

6.10.2

[表6.10.1〜8]

1.3合成樹脂塗床

6.10.2

[表6.10.1〜8]

種 別

施工箇所

仕 上 げ の 種 類

・弾性ウレタン樹脂系塗床材

※平滑仕上げ

・防汚仕上げ

・つや消し仕上げ

・エポキシ樹脂系塗床材

※薄膜流し

・磨き仕上げ

※平滑

・防汚

・樹脂モルタル仕上げ

※平滑

・防汚

・防汚仕上げ

6.10.2

ユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒド放数量

※規制対象外

・第三種

特 記 事 項





⑦ 塗装改修工事	①材料	建物内部に使用する場合のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ 建物内部に使用する塗料の材質 ・水系系 防火材料 ※屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする。 ・次の箇所を除き防火材料とする。（施工箇所： ）	[7.1.3]	8 耐震改修工事 共通事項	1 適用範囲	工事内容 ・鉄筋コンクリート造骨組 ・鉄筋鉄骨コンクリート造骨組及び鉄骨造骨組の前震改修工事の鉄筋工事 ・あと施工アンカー工事 ・コンクリート工事 ・鉄骨工事 ・グラウト工事 ・連続繊維補強工事 ・スリット新設工事 ・免震改修工事 ・制震改修工事	[8.1.1]	8-3 あと施工アンカー工事	①あと施工アンカー	材料等 金属材料アンカー セツト方式 ※本体打込み式 引張耐力 ※図示 せん断耐力 ※図示 接合部の種類、径、長さ ※図示 性能確認試験 ・実施する（試験方法及び試験数 ※図示） ・実施しない ・接着系アンカー アンカーの種類 ※カプセル型 引張耐力 ※図示 せん断耐力 ※図示 接着剤の品質 ※有機系 ・無機系 アンカー筋の種類 ※改修仕様表8.2.1の異形棒鋼 ・全ねじボルト 性能確認試験 ・実施する（試験方法及び試験数 ※図示） ・実施しない	[8.2.4]	6 高い強度のコンクリート	7 断熱材兼用型枠	設計基準強度 設計基準強度Fc (N/mm <sup>2</sup> ) ・ 27 ・ 30 ・ 33 ・ 36	[8.1.4]	8 コンクリートの打込み工法等	8-5 鉄骨工事	設計基準強度 設計基準強度Fc (N/mm <sup>2</sup> ) ・ 27 ・ 30 ・ 33 ・ 36	[8.1.4]	選和材料 ※選和剤 ※高性能AE減水剤標準形又は遅延形	[8.2.5]	種 類	施工箇所	厚さ (mm)	品質等	・断熱材兼用型枠 ・木質系 ・コンクリート系 ・プラスチック系	※壁（図示の範囲） ・ 
-------------	-----	--	---------	---------------------	--------	---	---------	-------------------	-----------	--	---------	---------------	-----------	--	---------	--------------------	-------------	--	---------	-----------------------------------	---------	-----	------	---------	-----	--	---

8-5

鉄骨工事

1 3

耐火被覆

種別等

[8. 18. 1~8. 18. 9]

種 別	所要性能及び適用箇所
・耐火材吹付け	・乾式吹付けロックウール
	・半乾式吹付けロックウール
	・湿式吹付けロックウール
	・
・耐火板張り	
・耐火材巻付け	
・ラス張りモルタル塗り	
・耐火塗料	

耐火被覆面への錆止め塗装　　・行わない　　・行う（適用箇所：　　）

8-6

グラウト工事

1

モルタル及びグラウト材

構造体用モルタル

[8. 2. 6]

※ [8. 2. 6] による

柱底均しモルタル

[8. 2. 12]

※無収縮モルタル

グラウト材

[8. 2. 12]

※無収縮グラウト材（セメント、混和材、砂は無収縮モルタルに準ずる）

無収縮モルタル及び無収縮グラウト材の仕様は次による

無収縮モルタルの材料及び調合

混和材	セメント系（酸化カルシウム、カルシウムサルファルミネート等によって膨張する性質を利用するもの）とする。
セメント	JIS R 5210（ポルトランドセメント）による普通又は早強ポルトランドセメントとする。
砂	（社）土木学会「コンクリート標準示方書」に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。
配合比	（各重量比）　（セメント+混和材）：砂＝1：1

無収縮モルタルの品質及び試験方法

[表8. 2. 10]

コンシステンシー	Jロートによる流下時間 練混ぜ完了から3分以内の値　8±2秒
ブリーディング	練混ぜ2時間後のブリーディング率　2. 0%以下
凝結時間	凝結開始時間　1時間以上 終結時間　10時間以内
無収縮性	材齢　7日　収縮しないこと
圧縮強度	材齢　3日　25. 0 N/mm <sup>2</sup> 以上 材齢 28日　45. 0 N/mm <sup>2</sup> 以上
付着強度	材齢 28日　3. 0 N/mm <sup>2</sup> 以上
塩化物量	0. 30kg/m <sup>3</sup> 以上
試験方法	(1) 日本道路公団規格JIS 312-1999（無収縮モルタル品質管理試験方法）による。 (2) 塩化物量は、JIS A 5308（レディーミクストコンクリート）の9. 6塩化物含有量の試験方法による。

無収縮グラウト材の材料（プレミックス及び現場調合形）

混和材	セメント系（酸化カルシウム、カルシウムサルファルミネート等によって膨張する性質を利用するもの）とする。
セメント	JIS R 5210（ポルトランドセメント）による普通又は早強ポルトランドセメントとする。
砂	（社）土木学会「コンクリート標準示方書」に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。ただし、現場調合形に使用される砂の乾燥状態については、規定しない。

無収縮グラウト材の品質及び試験方法（現場調合形においては標準使用量・配合値）

コンシステンシー	Jロートによる流下時間 練混ぜ完了から3分以内の値　8±2秒
ブリーディング	練混ぜ2時間後のブリーディング率　2. 0%以下
凝結時間	凝結開始時間　1時間以上 終結時間　10時間以内
無収縮性	材齢　7日　収縮しないこと
圧縮強度	材齢　3日　20. 0 N/mm <sup>2</sup> 以上 材齢 28日　40. 0 N/mm <sup>2</sup> 以上
付着強度	材齢 28日　2. 5 N/mm <sup>2</sup> 以上
塩化物量	0. 30kg/m <sup>3</sup> 以上
試験方法	(1) 日本道路公団規格JIS 312-1999（無収縮モルタル品質管理試験方法）による。 なお、プレミックス形と現場調合形で混和材が同一の場合はプレミックス形のみ試験を行う。 (2) 塩化物量は、JIS A 5308（レディーミクストコンクリート）の9. 6塩化物含有量の試験方法による。

8-7

連続繊維補強工事

1

連続繊維補強工法

連続繊維補強工法

[8. 24. 1]

・「連続繊維補強材を用いた既存鉄筋コンクリート造及び鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震改修設計・施工指針」（（財）日本建築防災協会発行）の第4章「補強工事の施工」による工法又は同等の性能を有する工法

・（財）日本建築防災協会の評価を受けた工法

2

連続繊維シート

連続繊維の材料

[8. 24. 5]

・炭素繊維　・アラミド繊維　・ガラス繊維

連続繊維の材質

[8. 24. 6]

引張強度（含浸硬化後）　　（　　）N/mm  
ヤング係数（含浸硬化後）　　（　　）N/mm  
繊維目付質量　　（　　）g/m  
シート厚さ　　（　　）mm  
シート張り方向　※図示  
定着方法　※図示  
含浸接着樹脂　・低臭型  
プライマー　・低臭型  
断面修復材  
下地調整剤

下地処理

[8. 24. 6]

仕上げモルタルの除去　※行う　・行わない  
下地処理の範囲　※図示  
下地処理の程度　※図示  
柱の隅角部の面取り箇所　※図示  
大きさ　※図示  
下地調整　※行う  
ひび割れ部改修　・行う　・行わない  
種類及び部位　※図示  
引張強度試験　・行う　・行わない  
試験数量　※図示  
付着強度試験　・行う　・行わない  
試験数量　※図示

8-8

耐震スリット新設工事

1

スリットの施工

既存撤去部の配管等の探査

[8. 25. 1]

※鉄筋探査機（金属探知機）により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う

・はつり出しによる

[8. 25. 1]

スリットの幅及び深さ　※図示

分析によるアスベスト含有の調査（アスベスト含有調査実施済）

[9. 1. 1]

・行う（採取箇所　※図示）

調査方法

材料名	調査方法（1材料当たりの試料数）
	※定性分析（※3　・　・）・定量分析（・3　・　・）
	※定性分析（※3　・　・）・定量分析（・3　・　・）
	※定性分析（※3　・　・）・定量分析（・3　・　・）

分析方法

※JIS A 1481（建材製品中のアスベスト含有率測定方法）による

分析結果については、監督職員に報告すること

報告書の様式

・（社）日本作業環境測定協会発行「石綿分析結果報告書」

アスベスト粉じん濃度測定

[9. 1. 1]

○行う（測定箇所　放散場）

測定時期、場所及び測定点数

適用	測定名称	測定時期	測定場所	測定点数（各処理作業室ごと）	備　考
・	測定1		処理作業室内	各（　）点	
○	測定2	処理作業前	施工区画周辺又は敷地境界	4方向各1点	
○	測定3		処理作業室内	各（1）点	
・	測定4		セキュリティゾーン入口	各1点	空気の流れを確認
・	測定5	処理作業中	倉庫・除じん装置の排出口（処理作業室外の場合）	各1点	除じん装置の性能確認
・	測定6		施工区画周辺又は敷地境界	4方向各1点	
・	測定7	処理作業後（隔離シート撤去前）	処理作業室内	各（　）点	
○	測定8		施工区画周辺又は敷地境界	4方向各1点	

(1) 施工区画とは、処理作業室、セキュリティゾーン、廃棄物置場、資材置場等を含む本処理工事に直接又は間接的に係る区画、施工区画周辺とは、その区画境界の前後1m以内の範囲をいう。

(2) 処理作業室の面積が50m<sup>2</sup>以下の場合は2点、300m<sup>2</sup>までは3点とする。300m<sup>2</sup>を超えるような場合は、監督職員と協議する。

測定方法

JIS K 3850-1（空气中の繊維状粒子測定方法-第1部：光学顕微鏡法及び走査電子顕微鏡法）による。

種類

※位相差顕微鏡法

試料採取フィルターを二分割し、一方を位相差顕微鏡法用として使用し、他方はその結果が高い場合（10本/L以上）に行う位相差・分散顕微鏡法用に保存しておく。

・位相差、分散顕微鏡法

測定機関は、都道府県労働局に登録されている作業環境測定機関とする。

	測定3（作業環境）	測定1, 4, 5, 7（室内環境）	測定2, 6, 8（大気環境）
メンブレンフィルターの直径（mm）	25	25	47
試料の吸引流量（L/分）	1	5	10
試料の吸引時間（分）	5	120	240
計数視野数	50	50	50
定量限界（本/L）	50	0. 5	0. 3

測定記録項目

(1) 除去するアスベスト含有建材の種類

(2) 測定点の位置の図面

(3) 測定日時、天候、気流

(4) 試料採取条件

(5) 標本作製方法

(6) 使用顕微鏡の種類（開口数を含む）

(7) 計数条件（HSEテストスライドの読取りグループ番号を含む）

(8) 繊維数濃度（位相差顕微鏡法の場合は総繊維数濃度、位相差・分散顕微鏡法の場合はアスベスト繊維数濃度）

(9) 定量限界

(10) その他

アスベスト含有吹付け材の除去（レベル1）　　・行う

[9. 1. 3]

除去対象範囲　※図示

除去工法　※改修仕様9. 1. 3 (2) (7) (a)～(b)による

除去したアスベスト含有吹付け材等の処理

※密封処理（二重袋梱包）

・セメント固化

除去対象範囲　※図示

作業場の隔離　・行う　・行わない

アスベスト含有保温材等の除去（レベル2）　　・行う

[9. 1. 4]

除去対象範囲　※図示

アスベスト含有成形板の除去（レベル3）　○行う

[9. 1. 5]

石綿含有仕上塗材の除去　○行う

[9. 1. 6]

2

外断熱改修工事

断熱材の種類

[9. 2. 1]

種　類	発泡剤の種類	ホルムアルデヒド放散による区分	厚さ（mm）
・ビーズ法ポリスチレンフォーム保温材	・	A種 <a href="#">G</a>	F☆☆☆☆等級
・押出法ポリスチレンフォーム保温材	・	A種 <a href="#">G</a>	F☆☆☆☆等級
・硬質ウレタンフォーム保温材	・	A種 <a href="#">G</a>	F☆☆☆☆等級
・フェノールフォーム保温材	・	A種 <a href="#">G</a>	F☆☆☆☆等級
・ロックウール	・		F☆☆☆☆等級
・グラスウール	・		F☆☆☆☆等級

外装材の種類

[9. 3. 2]

種　類	防火性能
・	

既存外壁の仕上材の撤去　　・あり　　・なし

[9. 2. 3]

下地面の清掃及び下地調整　※断熱材製造所の指定する仕様

[9. 2. 4]

透気層　　・あり（　　mm）　　・なし

[9. 2. 4]

試験施工、工法及び品質は、確認できる資料を提出し監督職員の承認を受ける。

[9. 2. 4]

特記なき事項は、製造所の仕様による。

3

ガラス改修工事

4

断熱・防露改修工事

5

屋上緑化改修工事 [G](#)

6

透水性アスファルト舗装改修工事

断熱材の種類

[9. 3. 1]

種　類		発泡剤の種類等	厚さ（mm）	施工箇所
打込み工　法	・ビーズ法ポリスチレンフォーム保温材	・	A種 <a href="#">G</a>	
	・押出法ポリスチレンフォーム保温材	・保温板2種b	A種 <a href="#">G</a>	※25　・
		・保温板3種b（スキン層付き）		※25　・
	・硬質ウレタンフォーム保温材	・	※A種 <a href="#">G</a>	
現場発泡工法	・吹付け硬質ウレタンフォーム	※A種1 <a href="#">G</a> ※A種1H	難燃性を有するもの	― ※15　・

5

屋上緑化改修工事 [G](#)

6

透水性アスファルト舗装改修工事

植栽基盤及び材料

[9. 4. 1]

[9. 4. 2]

・屋上緑化軽量システム

芝及び地被類の種類等　※図示

工法

[9. 4. 3]

かん水装置　　・設置する（工事区分は図示による）

既存保護層の撤去　　・行う

路床の構成及び厚さ

[9. 5. 1]

・遮断層　厚さ（mm）　※150

・凍上抑制層　厚さ（mm）　※150

・フィルター層　厚さ（mm）　車道部　※150  
歩道部　※50

路床安定処理

※添加材料による安定処理

添加材料の種類

・普通ポルトランドセメント

・高炉セメントB種 [G](#)

・フライアッシュセメントB種

・生石灰（　　）

・消石灰（　　）

添加量（　　）kg/m<sup>2</sup>（目標CBR　※5以上　・　　）

・ジオテキスタイル

単位面積質量　60g/m<sup>2</sup>以上

厚さ（mm）　0. 5～1. 0

引張強さ　98N/5cm(10kgf/5cm) 以上

透水性係数　1. 5×10cm/sec以上

盛土の種類　・A種　・B種　・C種　・D種

・建設汚泥から再生した処理土 [G](#)

遮断層及び凍上抑制層の材料

・遮断層　※川砂、海砂又は良質な山砂

厚さは図示

・凍上抑制層　※再生クラッシュラン　・クラッシュラン　・切込砂利　・砂

厚さは図示

発生土の処理

※構外搬出適切処理

・構内指定場所に敷均し

・構内指定場所に堆積

・構内指定場所に処分（搬出調査等を監督職員に提出する）

路床土の支持力比（CBR）試験　※行う　・行わない

路床の絞固め度試験　※行う　・行わない

砂の粒度試験　※行う　・行わない

路盤材料

・再生クラッシュラン [G](#)

・クラッシュラン鉄鋼スラグ [G](#)

[9. 5. 4]

路盤厚さ（mm）

車道部　※150

歩道部　※100

路盤の絞固め度試験　※行う　・行わない

舗装材料及び厚さ

[9. 5. 5]

[9. 5. 6]

車道部　※改質アスファルトⅠ型　厚さ（mm）　※50

歩道部　※ストレートアスファルト　厚さ（mm）　※30

透水性アスファルト混合物等の抽出試験　※行う　・行わない

[9. 5. 9]

特記事項

承認

設計

担当

縮　　尺

設計年月日

工事名称

遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備（建築主体）工事（北—中型サル舎）

図面名称

特記仕様書 6

北中 A-07 No.

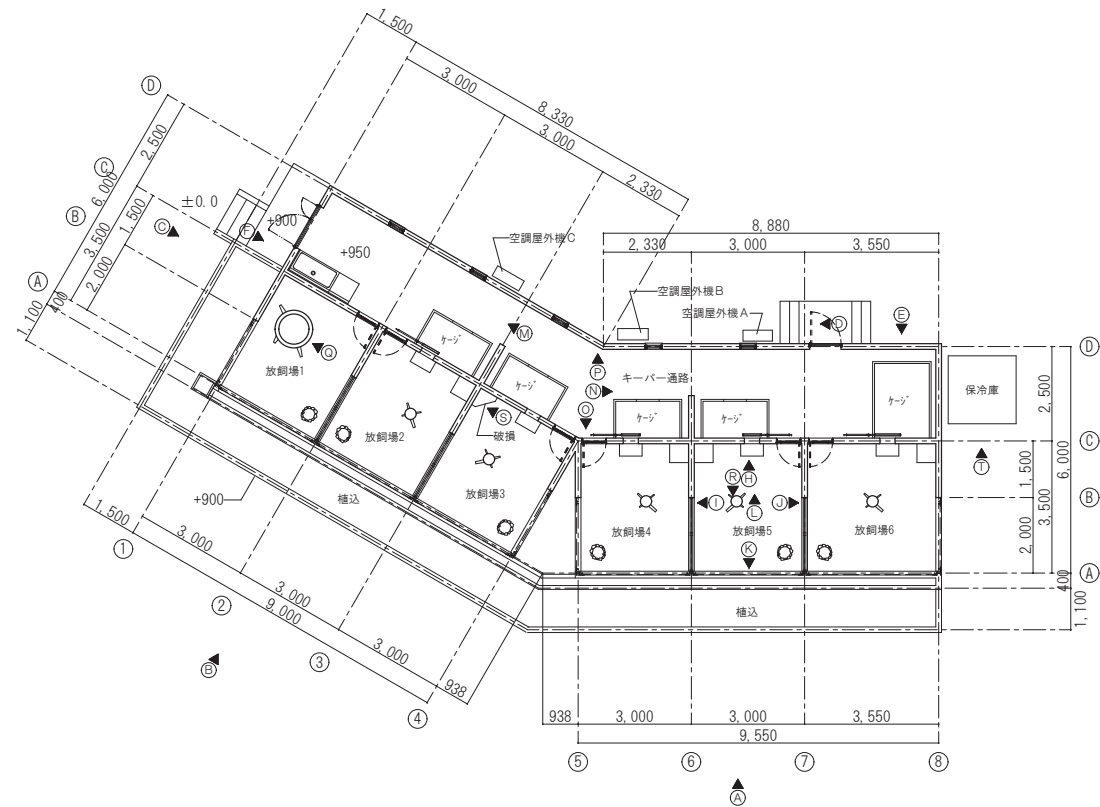


部位	仕上げ		部位	仕上げ	
屋根 1、2	現況	屋根 1：折半屋根 カラーGL鋼板 H150 ボルト式 ／ 屋根 2：カラー亜鉛鋼板葺	その他	外壁隙間塞ぎ	軒先部分：軒先見切面戸新設、水切/カラーGL鋼板t=0.4加工
	改修後	下地調整（R8種）の上、 錆止め塗装(現場1回塗)、DP塗り			ケラバ部分：見切/カラーGL鋼板t=0.4加工
外壁 1	現況	吹付スタッコ仕上		保冷库	W1,800×D1,800×H2,100、一時仮移設の後、現況位置へ再設置（仮移設場所は敷地内とし監督員と協議のこと）
	改修後	高圧洗浄の上、可とう形改修塗材E		空調屋外機	一時撤去再取付
外壁 2（放飼場）	現況	吹付タイル（アスベスト含有）		コルツヒータースペース(6カ所)	コルツヒータースペース新設 詳細図参照(既存SUS製メッシュ一部加工)
	改修後	現況外壁仕上材撤去処分（アスベスト含有）、下地調整、複層塗材E		排水溝(補修)	ひび割れ部：Uカット工法 可とう性エポキシ樹脂充填
ケージ鉄骨部	現況	DP塗装			欠損部：充填工法 エポキシ樹脂モルタル充填
	改修後	下地調整（R8種）の上、 錆止め塗装(現場2回塗)、DP塗り		土間(補修)	欠損部：充填工法 エポキシ樹脂モルタル充填
ケージ内パネル(4か所)	現況	スチール製FIXサッシ 強化ガラスt=8		人止柵	支柱：木製H900、ロープ3段
	改修後	既存サッシ撤去処分、取り外し式二重ケージパネル 新設 （詳細図参照）			
擬木 1	現況	カラーモルタル擬木調仕上			
	改修後	高圧洗浄の上、DP塗装（凹凸面2色塗装）			
擬木 2 (5か所)	現況	カラーモルタル擬木調仕上			
	改修後	高圧洗浄の上、DP塗装（凹凸面2色塗装） / 欠損部：充填工法 エポキシ樹脂モルタル充填			
コンクリート台(放飼場3)	現況	コンクリート打ち放し補修、DP塗			
	改修後	既存撤去処分：コンクリートカッター入れ、撤去処分 復旧：金属系あと施工アンカー( D10差筋アンカー@100)、普通コンクリート型枠、鉄筋D10@100、コンクリート28Fc＝21H/m㎡、DP塗、W500×D500×T100			
キーパー通路天井(一部、下がり天井)	現況	LGS下地、ケイカル板t=6素地仕上（アスベスト含有）、アルミ製廻縁			
	改修後	既存撤去処分：ケイカル板t=6素地仕上（アスベスト含有）、LGS下地・アルミ製廻縁共 復旧：LGS下地、ケイカル板t=6素地仕上、アルミ製廻縁、アルミ製天井点検口450角			
擁壁	現況	コンクリート打放し仕上			
	改修後	高圧洗浄の上、色粉入モルタル吹付			

<凡例（塗装記号）>  
・DP                      ・ポリウレタン樹脂（3級）カラー

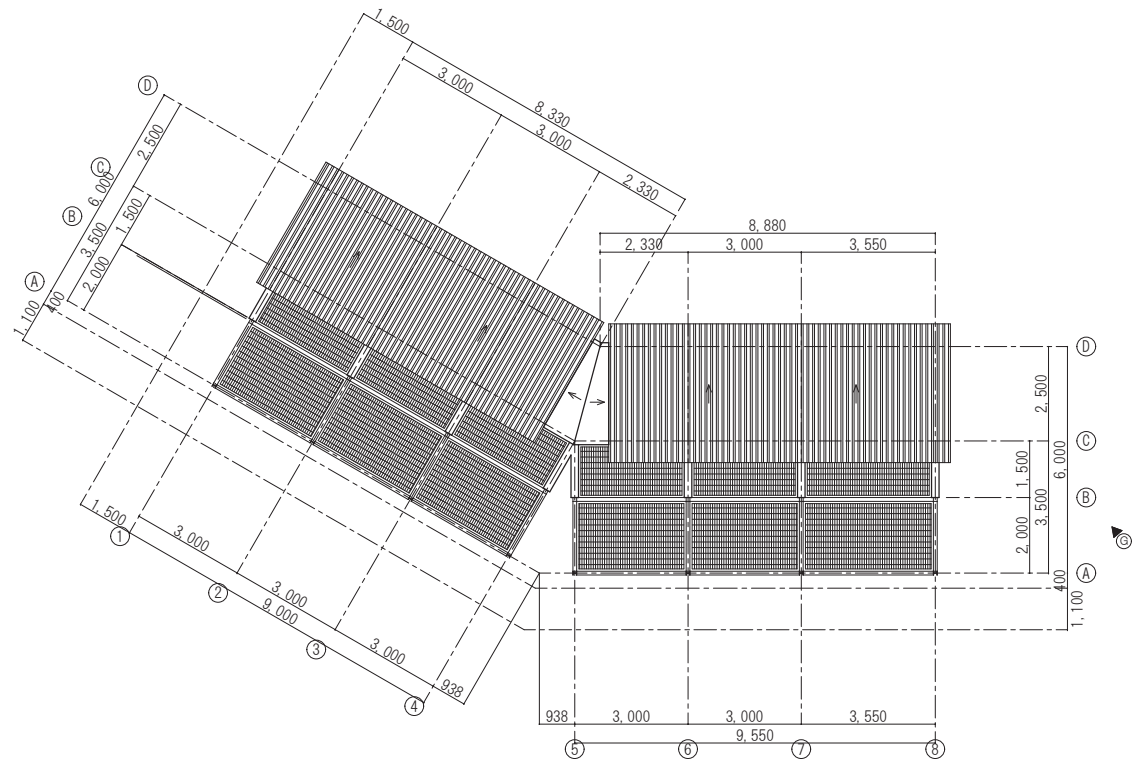
・アスベスト含有材料撤去処分については、適正な処量にて撤去処分を行うこと

<メーカーリスト（同等品以上）>



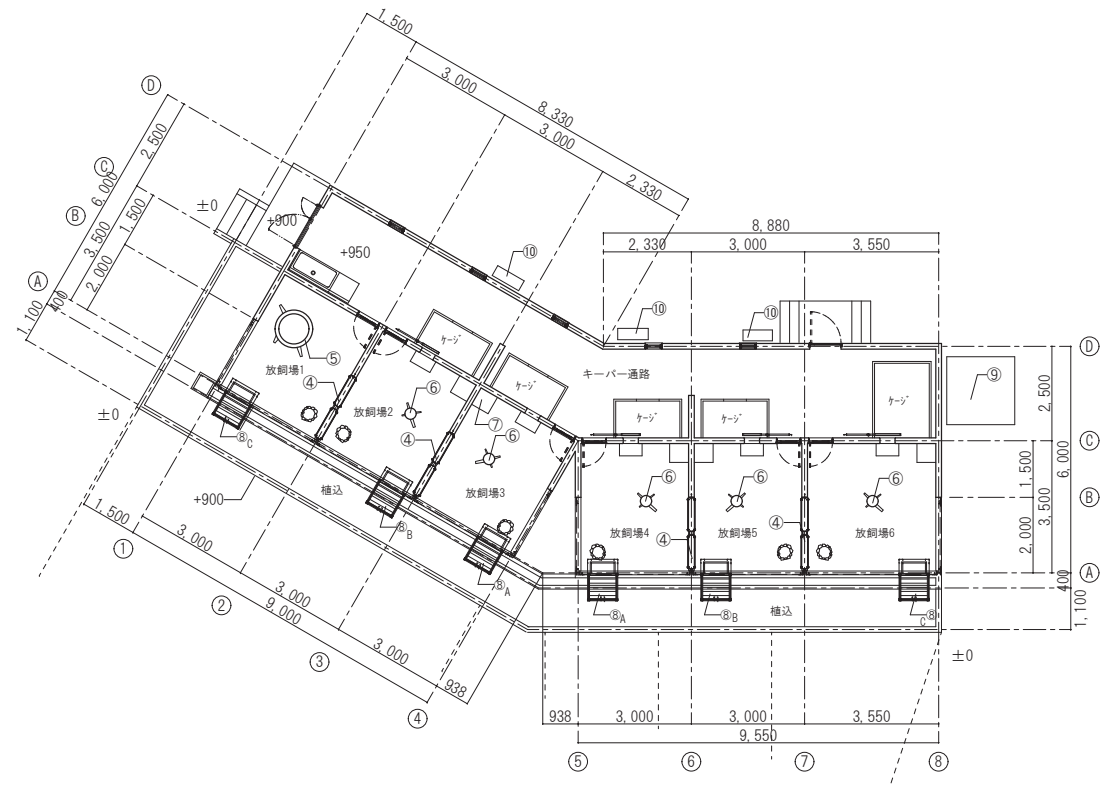
平面図 S=1:100

※設計GL=±0=261.19



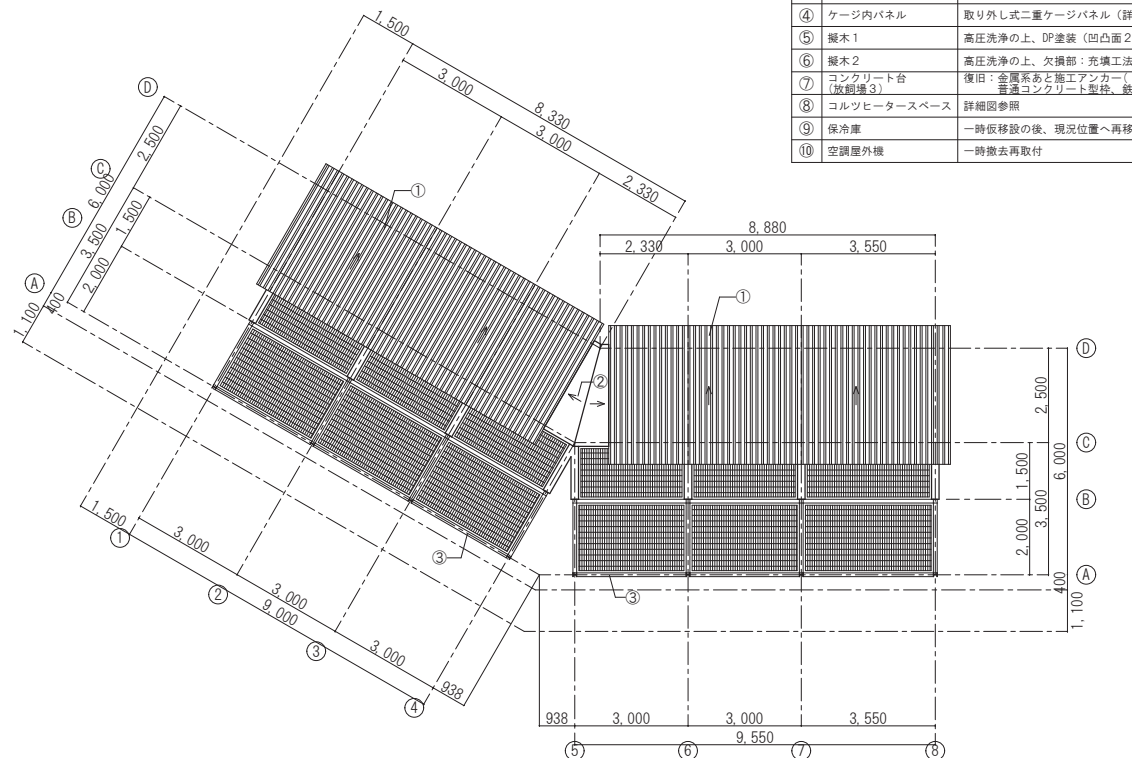
屋根伏図 S=1:100

凡例
撮影方向
写真記号



平面図 S=1:100

※設計GL=±0=261.19



屋根伏図 S=1:100

記号	部位	仕上げ等
①	屋根1	下地調整(RB種)の上、錆止め塗装(現場1回塗)、DP塗り
②	屋根2	下地調整(RB種)の上、錆止め塗装(現場1回塗)、DP塗り
③	放飼場鉄部	下地調整(RB種)の上、錆止め塗装(現場2回塗)、DP塗り
④	ケージ内パネル	取り外し式二重ケージパネル(詳細図参照)
⑤	観木1	高圧洗浄の上、DP塗装(凹凸面2色塗装)
⑥	観木2	高圧洗浄の上、欠損部:充填工法 エポキシ樹脂モルタル充填、DP塗装(凹凸面2色塗装)
⑦	コンクリート台	復旧:金属系あと施工アンカー(φ10着筋アンカー@100)
⑧	観木3	高圧洗浄の上、DP塗装(凹凸面2色塗装)
⑨	保冷库	詳細図参照
⑩	空調屋外機	一時仮移設の後、現況位置へ再移設(仮移設場所は敷地内とし監督員と協議のこと)
		一時撤去再取付

特記事項	

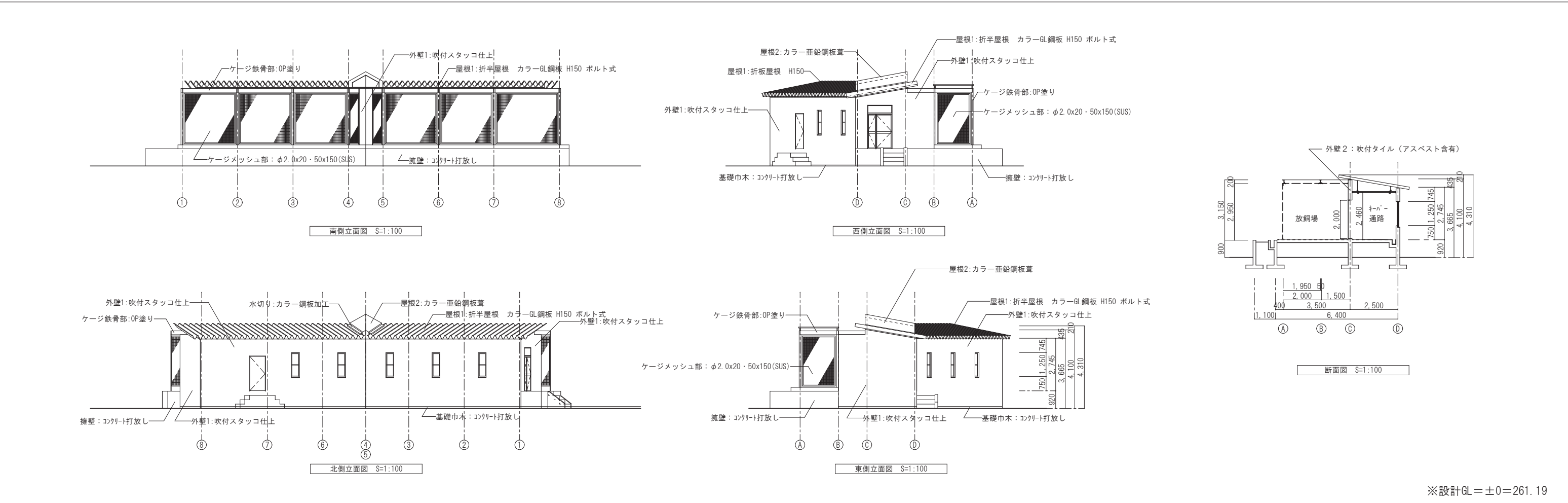


山梨建築設計監理事業協同組合

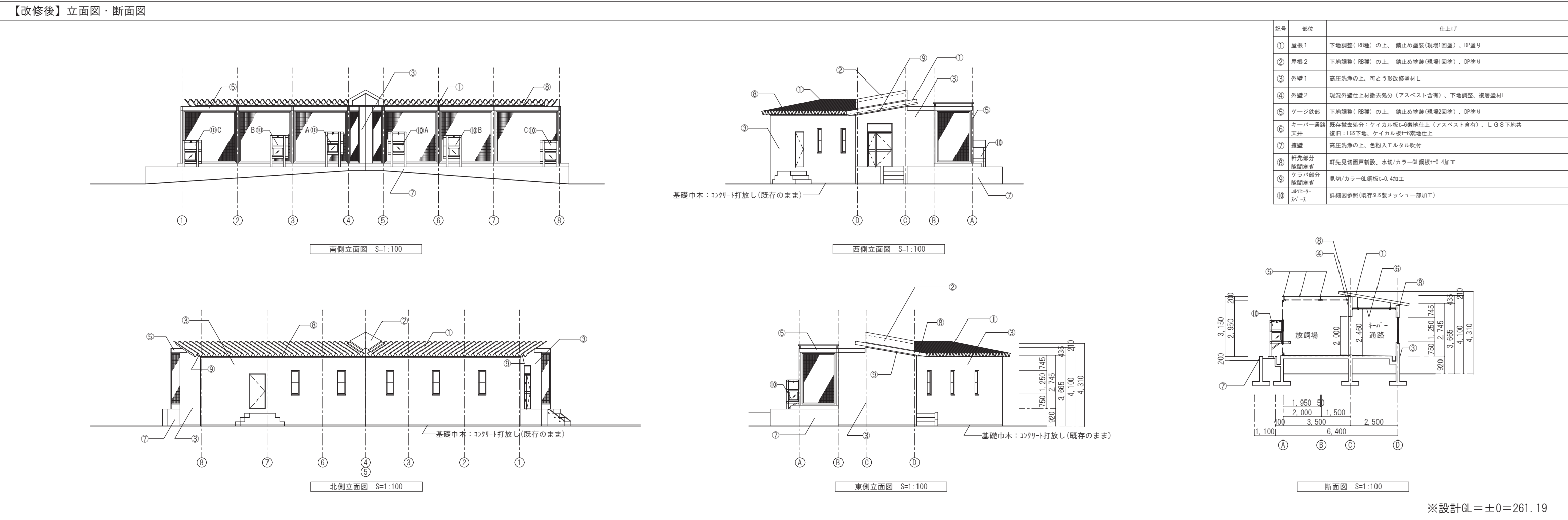
承認	設計	担当	縮尺
			A1→1/100 A3→1/200
			設計年月日

工事名称	遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備(建築主体)工事(北—中型サル舎)
図面名称	平面図・屋根伏図

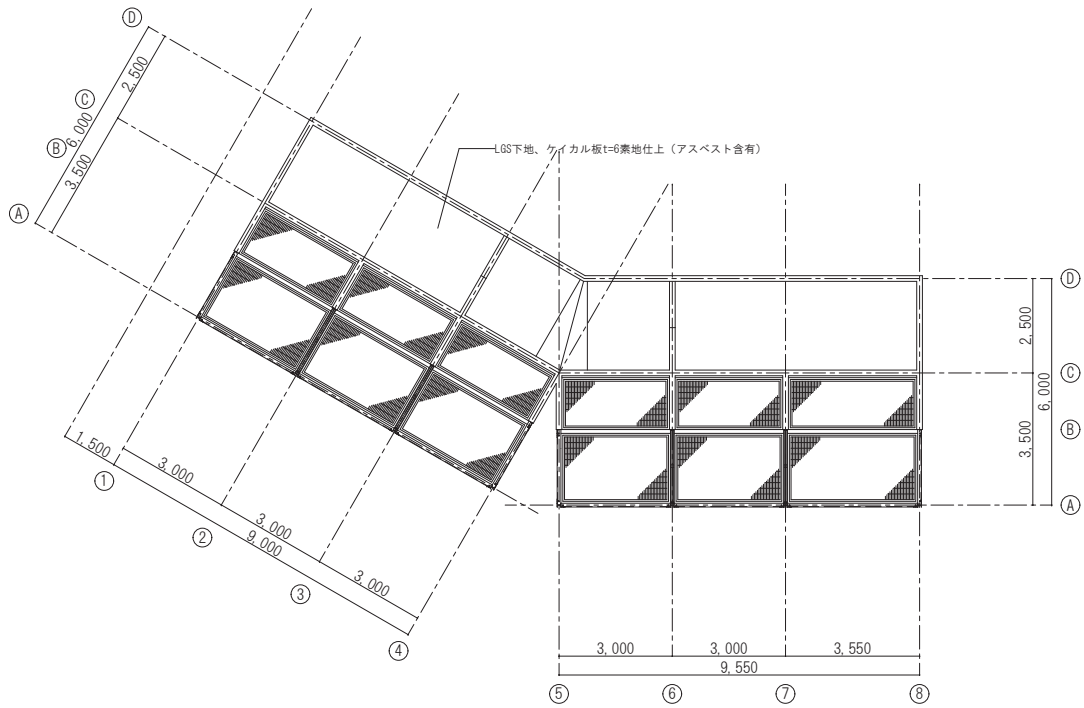
北中 A-09  
No.



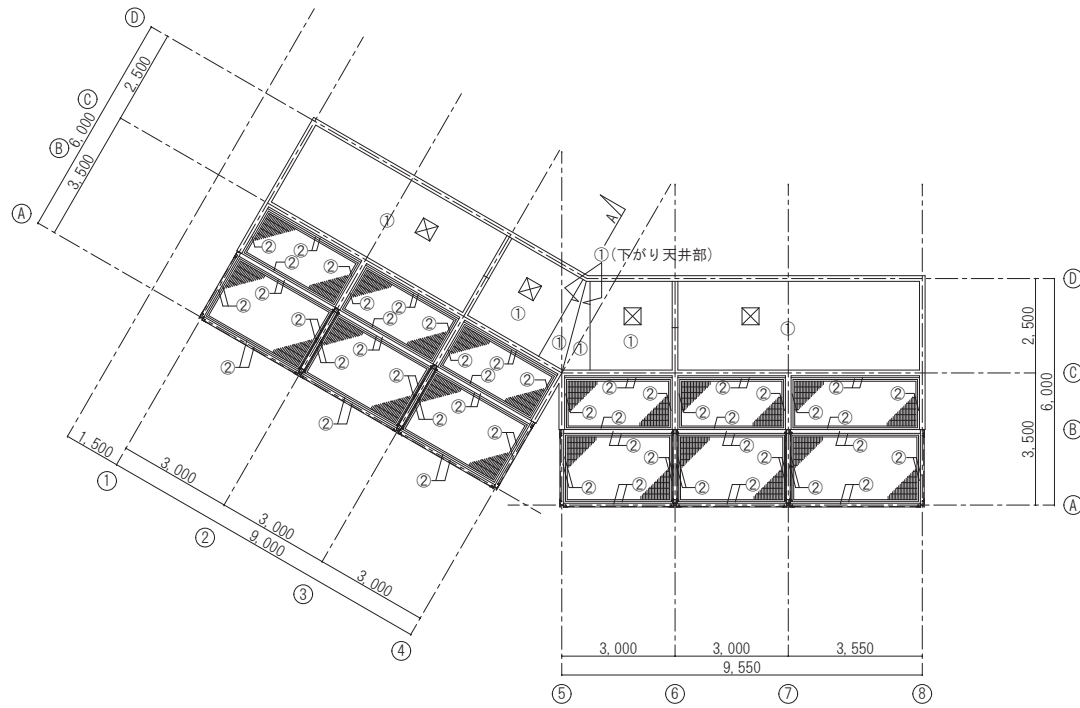
※設計GL＝±0＝261.19



※設計GL＝±0＝261.19



【現況】天井伏図 S=1:100



【改修後】天井伏図 S=1:100

記号	場所	仕上げ等
①	キーパー通路天井 (一部、下がり天井)	既存撤去処分：ケイカル板t=6素地仕上（アスベスト含有）、LGS下地共 復旧：LGS下地、ケイカル板t=6素地仕上、アルミ製通縁
②	ゲージ鉄部	下地調整（R8種）の上、錆止め塗装（現場2回塗）、DP塗り
☒	キーパー通路天井	アルミ製天井点検口450角

特記事項



山梨建築設計監理事業協同組合

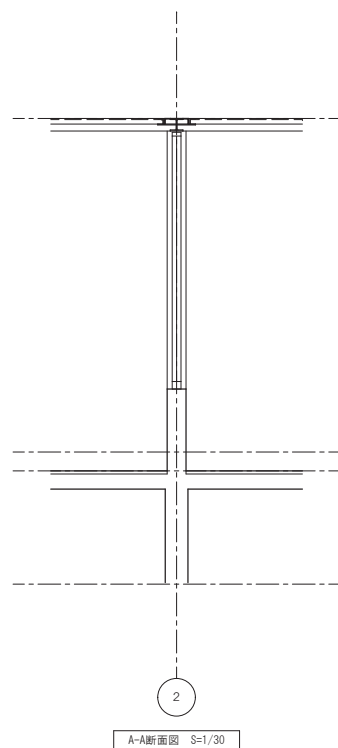
承認	設計	担当	縮尺
			A1→1/100 A3→1/200
			設計年月日

工事名称 遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備(建築主体)工事（北—中型サル舎）  
図面名称 天井伏図

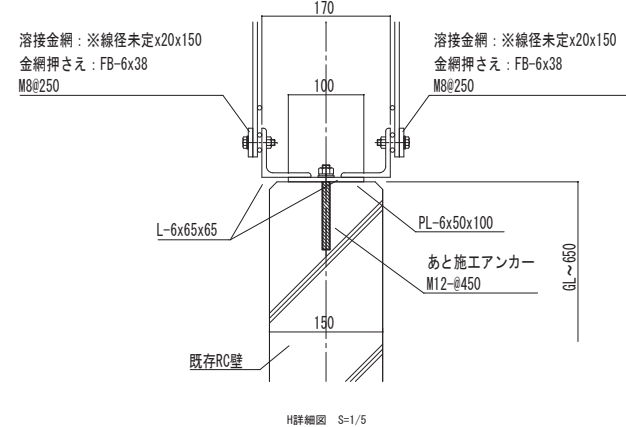
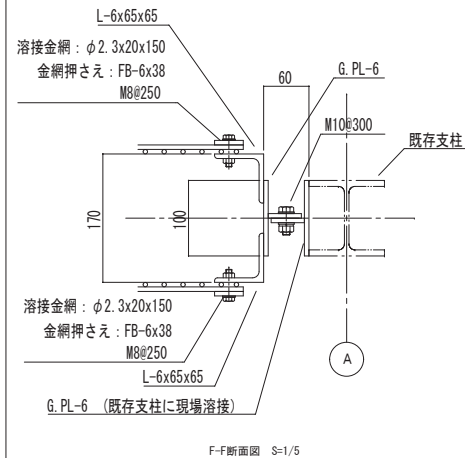
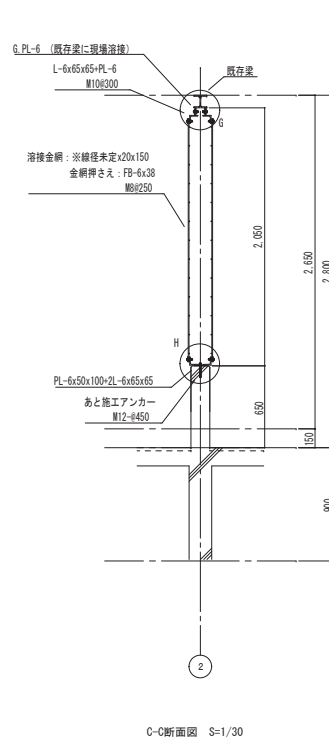
北中 A-11  
No.

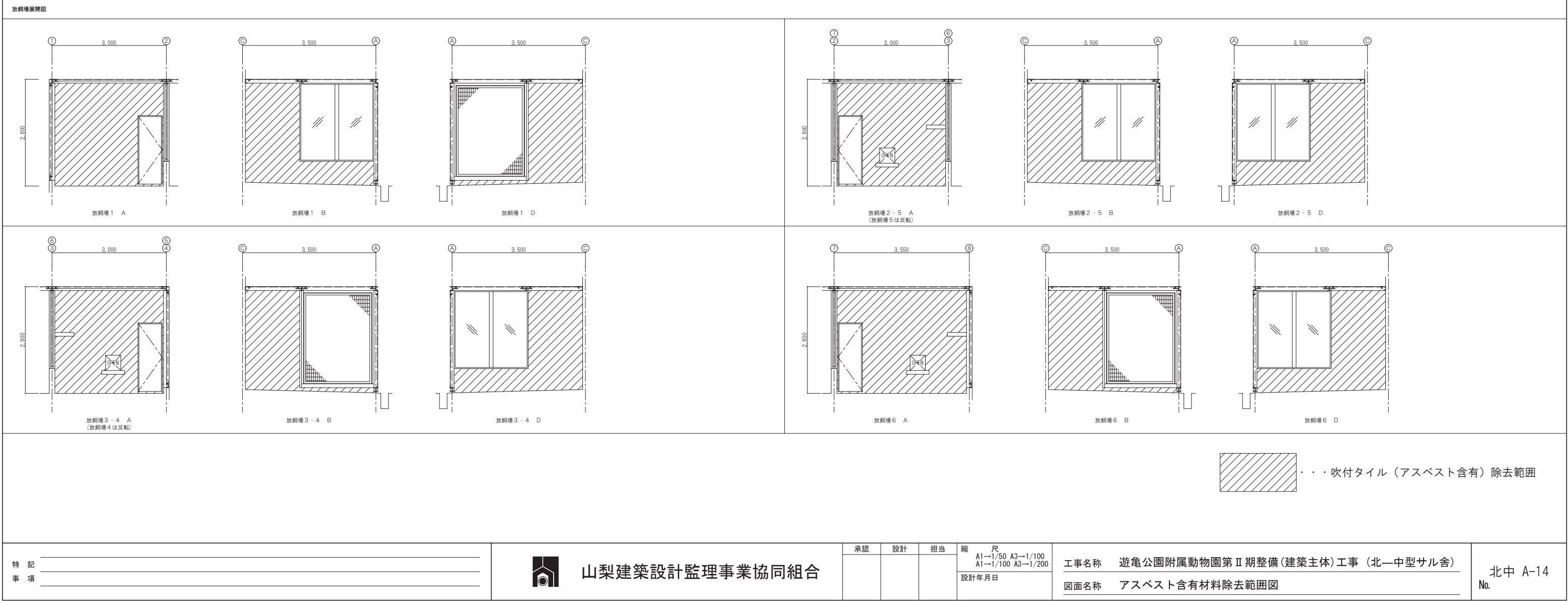
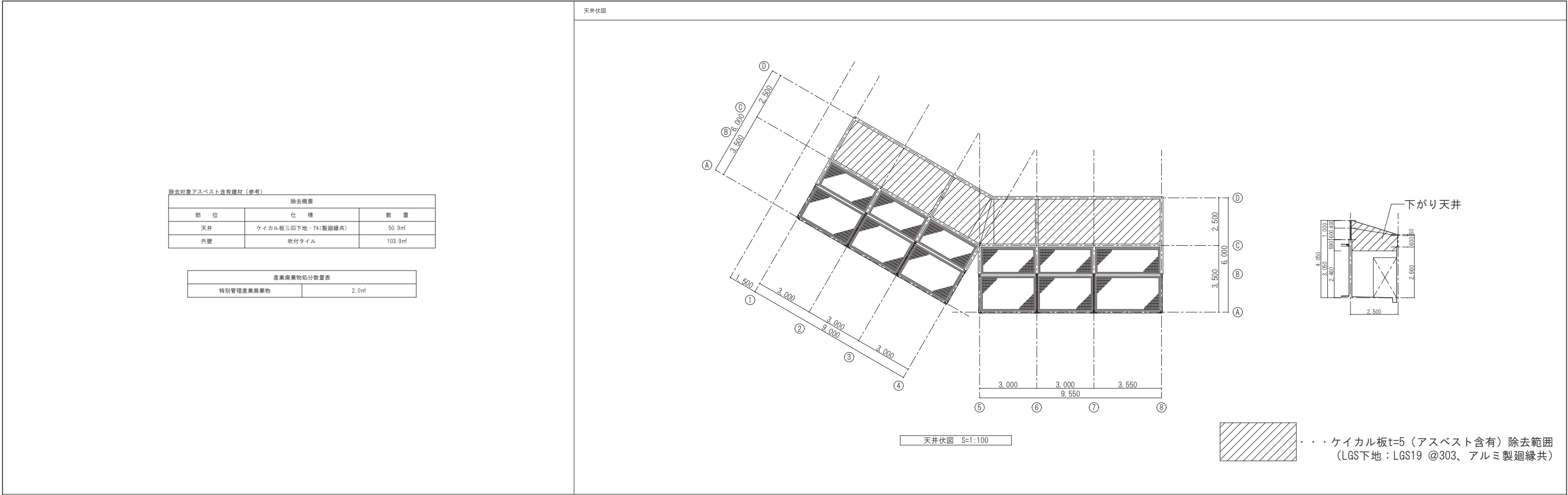


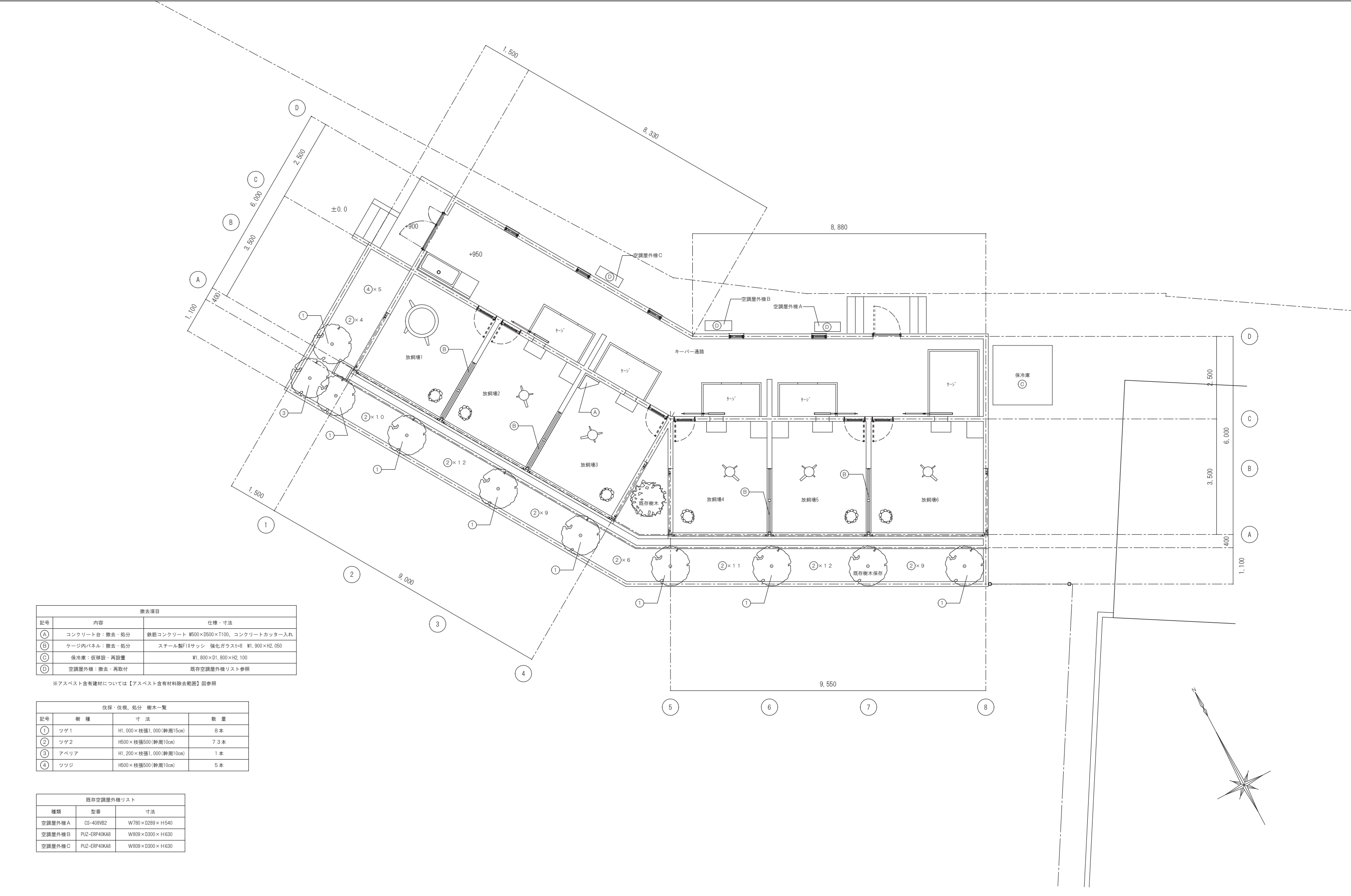
軒先部分 隙間塞ぎ詳細図 (S=1/5)		コルツヒーター置場詳細図 (S=1/30)	
ケラバ部分 隙間塞ぎ詳細図 (S=1/5)			



改修後：二重ケーシパネル（取外し式）







撤去項目		
記号	内容	仕様・寸法
(A)	コンクリート台：撤去・処分	鉄筋コンクリート W500×D500×T100、コンクリートカッター入れ
(B)	ケージ内パネル：撤去・処分	スチール製FIXサッシ 強化ガラスt=8 W1,900×H2,050
(C)	保冷库：仮移設・再設置	W1,800×D1,800×H2,100
(D)	空調屋外機：撤去・再取付	既存空調屋外機リスト参照

※アスベスト含有建材については【アスベスト含有材料除去範囲】図参照

伐採・伐根・処分 樹木一覧			
記号	樹 種	寸 法	数 量
(1)	ツゲ1	H1,000×枝張1,000(幹周15cm)	8本
(2)	ツゲ2	H500×枝張500(幹周10cm)	73本
(3)	アベリア	H1,200×枝張1,000(幹周10cm)	1本
(4)	ツツジ	H500×枝張500(幹周10cm)	5本

既存空調屋外機リスト		
種類	型番	寸法
空調屋外機A	CS-408VB2	W780×D289×H540
空調屋外機B	PUZ-ERP40KA8	W809×D300×H630
空調屋外機C	PUZ-ERP40KA8	W809×D300×H630

特 記  
事 項



山梨建築設計監理事業協同組合

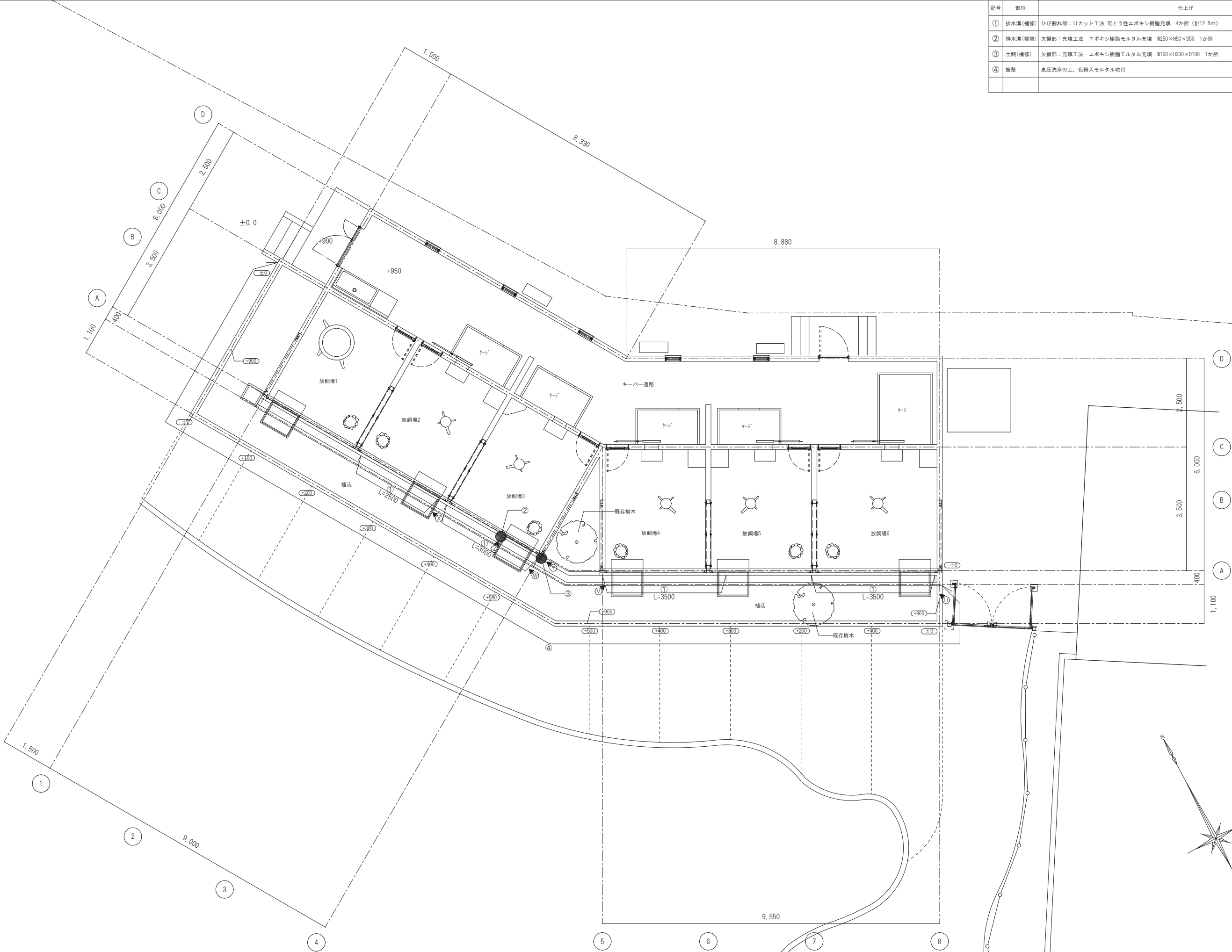
承認 設計 担当 縮 尺  
A1→1/50 A3→1/100  
設計年月日

工事名称 遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備(建築主体)工事(北—中型サル舎)  
図面名称 解体図

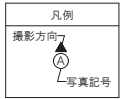
北中 A-15  
No.



記号	部位	仕上げ
①	排水溝(補修)	ひび割れ部：Uカット工法 可とう性エポキシ樹脂充填 4か所(計12.5m)
②	排水溝(補修)	欠損部：充填工法 エポキシ樹脂モルタル充填 W250×H50×D50 1か所
③	土間(補修)	欠損部：充填工法 エポキシ樹脂モルタル充填 W100×H200×D100 1か所
④	擁壁	高圧洗浄の上、色粉入モルタル吹付



※設計GL=±0=261.19



特記事項	

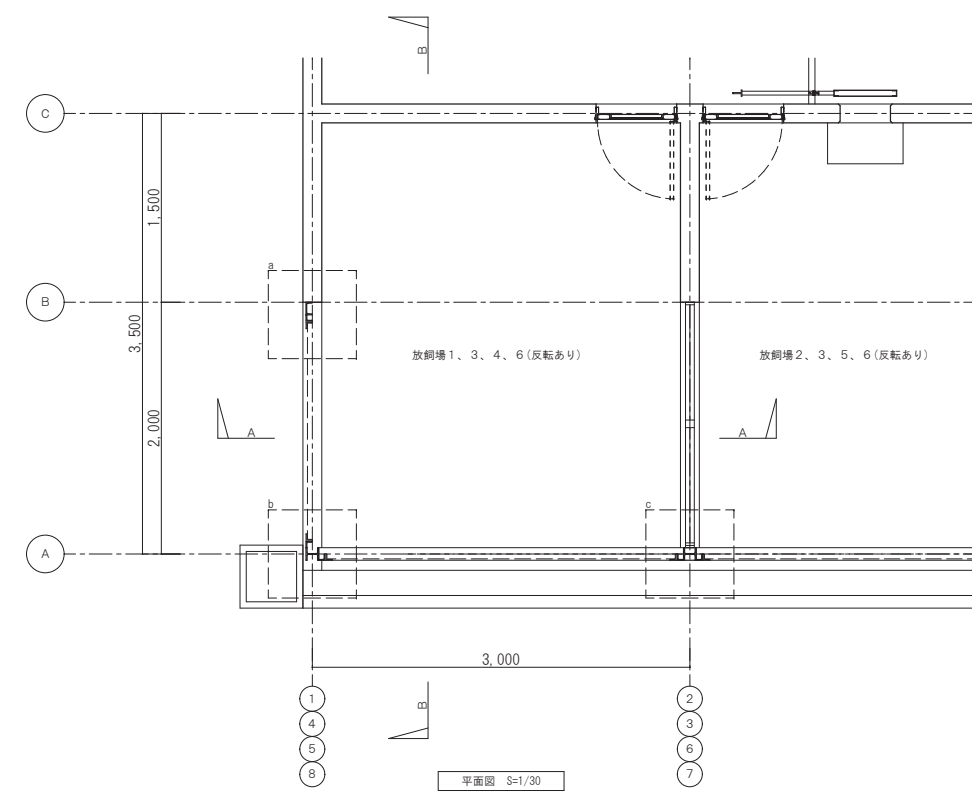
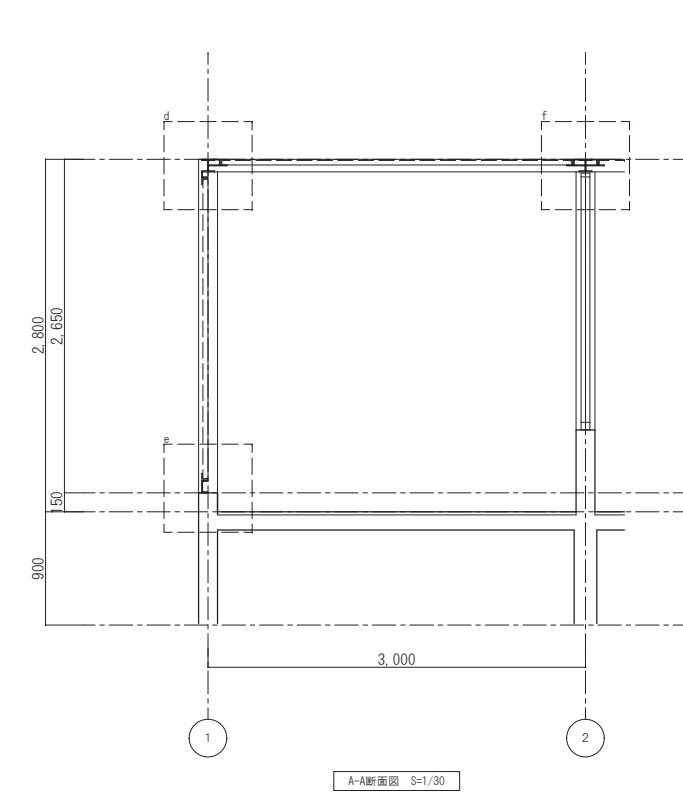
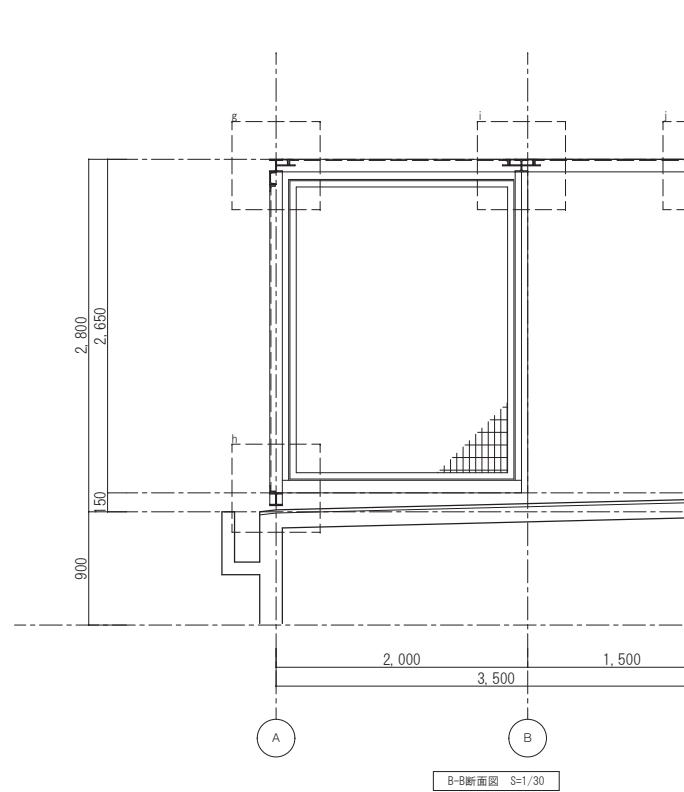
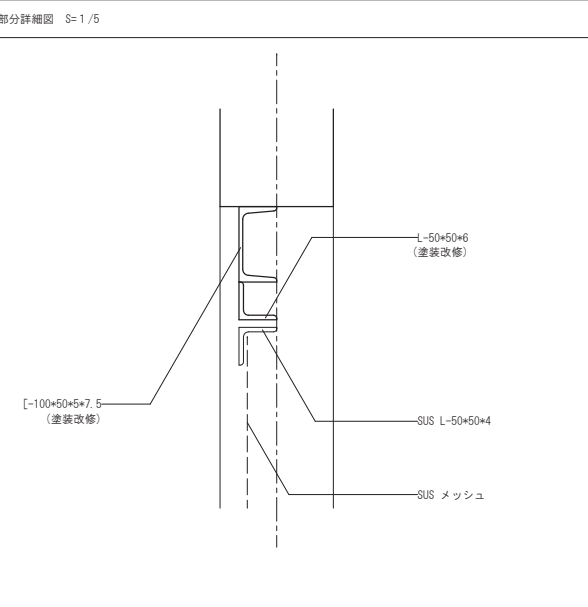
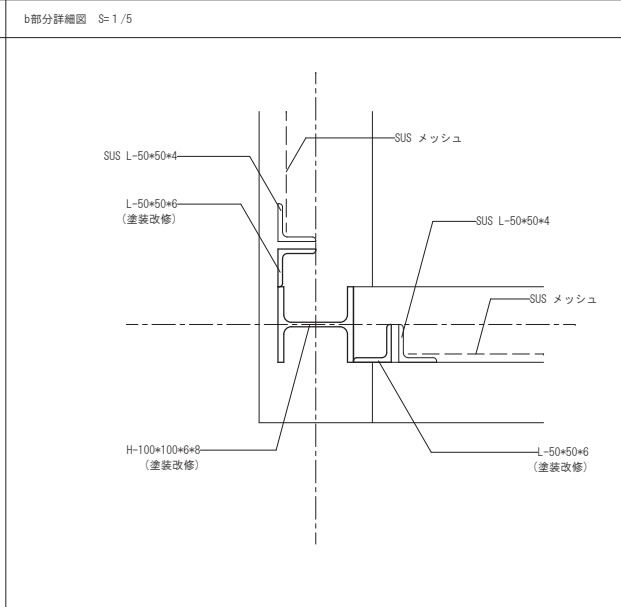
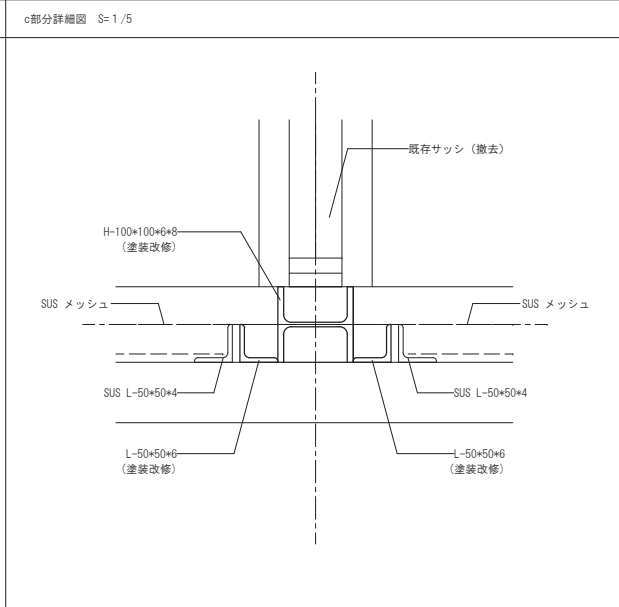
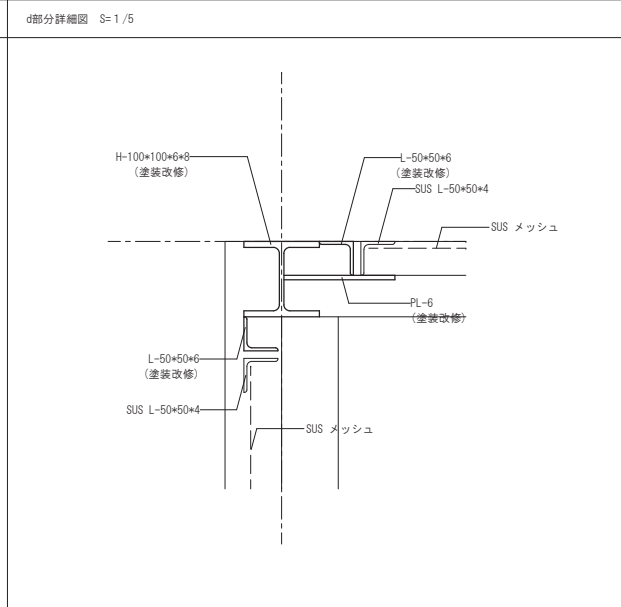
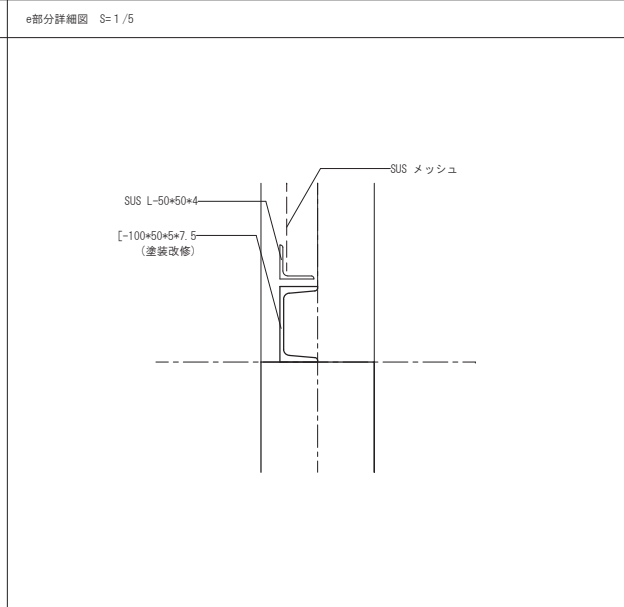
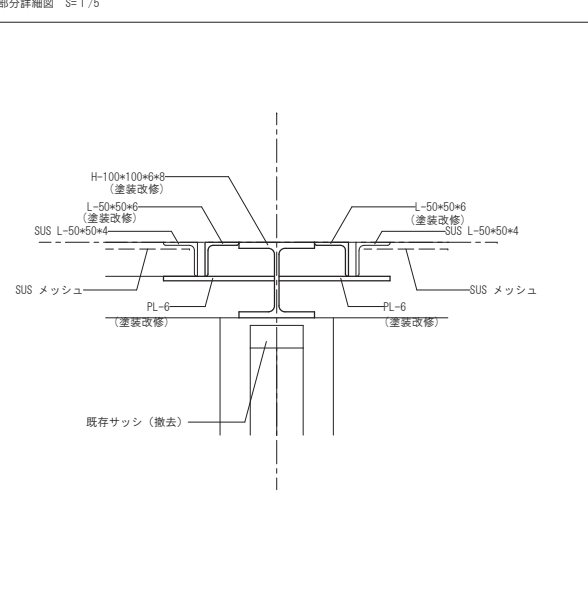
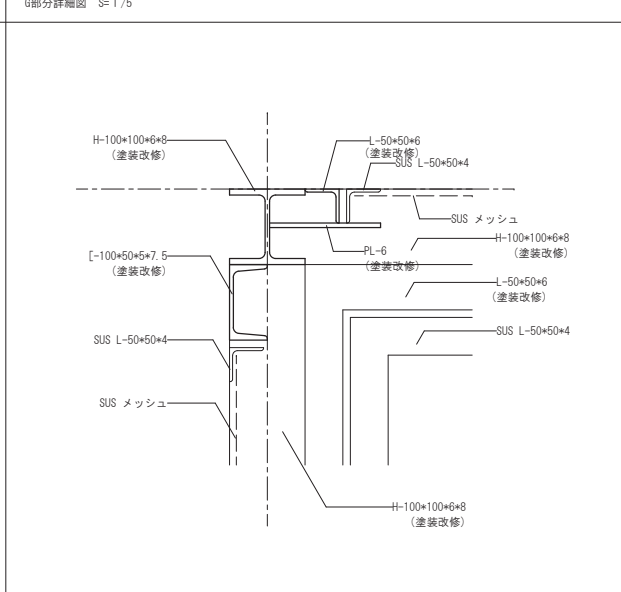
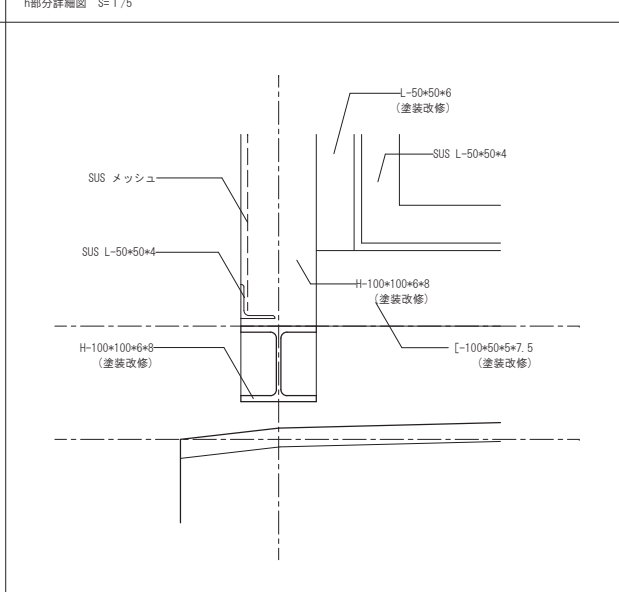
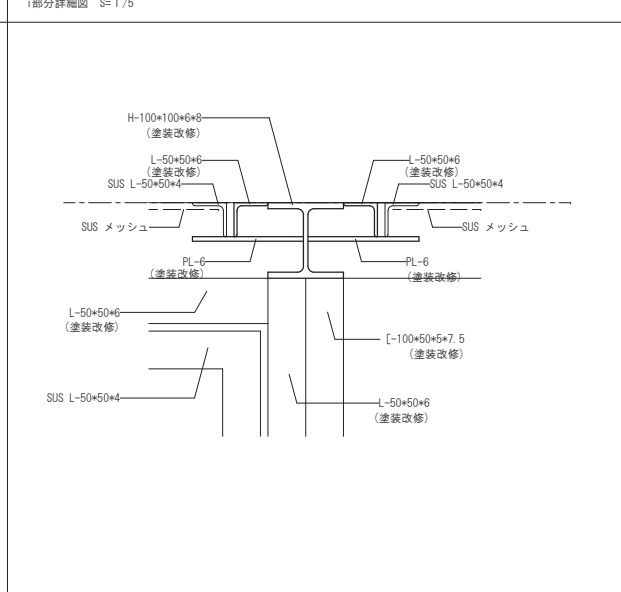
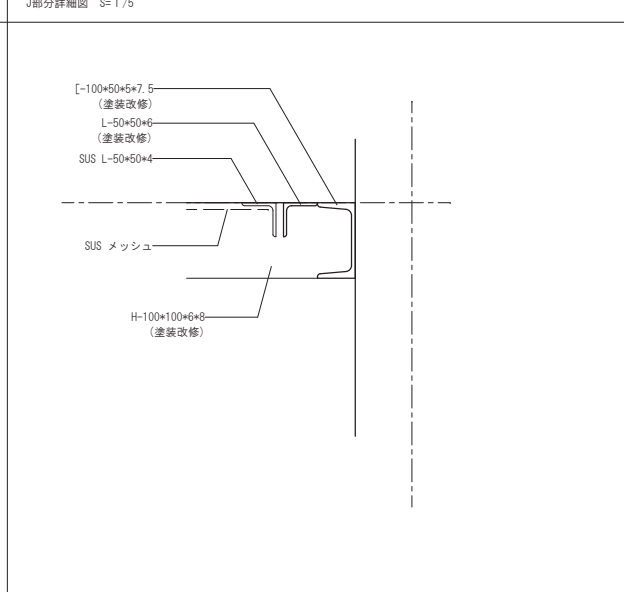



山梨建築設計監理事業協同組合

承認	設計	担当	縮尺
			A1→1/50 A3→1/100 設計年月日

工事名称	遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備(建築主体)工事(北—中型サル舎)
図面名称	外構図





北中 A-16  
No.

 <p>平面図 S=1/30</p>			 <p>A-A断面図 S=1/30</p>			 <p>B-B断面図 S=1/30</p>														
a部分詳細図 S=1/5			b部分詳細図 S=1/5			c部分詳細図 S=1/5			d部分詳細図 S=1/5			e部分詳細図 S=1/5								
																				
f部分詳細図 S=1/5			g部分詳細図 S=1/5			h部分詳細図 S=1/5			i部分詳細図 S=1/5			j部分詳細図 S=1/5								
																				
特記事項						承認 設計 担当			縮尺 A1→1/5 A3→1/10 A1→1/30 A3→1/60 設計年月日			工事名称 遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備(建築主体)工事(北—中型サル舎)			図面名称 既存放飼場ケージ参考図			北中 A-17 No.		







① 排水溝	① 排水溝	① 排水溝	① 排水溝	① 土間
<div>ひび割れ部：Uカット工法 可とう性エポキシ樹脂充填</div> 	<div>ひび割れ部：Uカット工法 可とう性エポキシ樹脂充填</div> 	<div>ひび割れ部：Uカット工法 可とう性エポキシ樹脂充填</div> 	<div>ひび割れ部：Uカット工法 可とう性エポキシ樹脂充填</div> 	<div>欠損部：充填工法 エポキシ樹脂モルタル充填</div> 
② 排水溝				
<div>欠損部：充填工法 エポキシ樹脂モルタル充填</div> 				
				</